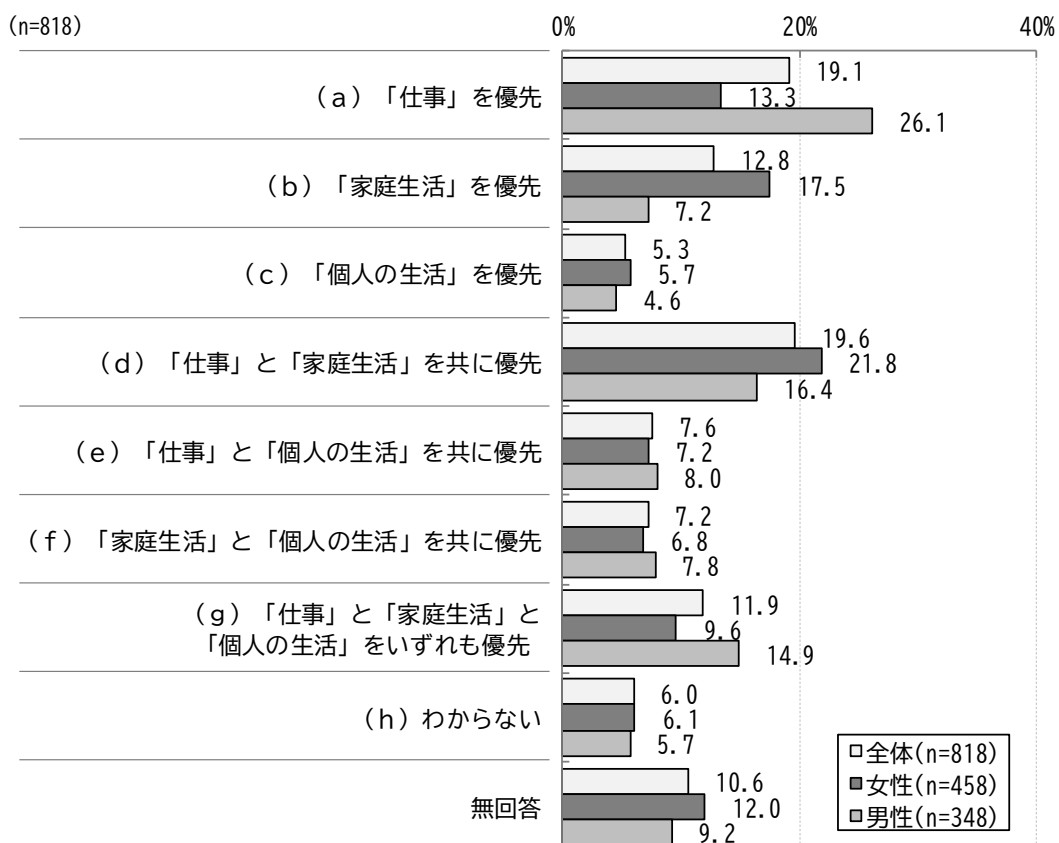


■ ①現状

仕事・家庭・個人生活の優先度の①現状について、性別にみると、男性は「(a)「仕事」を優先」の割合が高く、女性では、「(d)「仕事」と「家庭生活」を共に優先」の割合が高くなっています。

年代別にみると、29歳以下は「(e)「仕事」と「個人の生活」を共に優先」が、30～59歳では「(d)「仕事」と「家庭生活」を共に優先」、60歳以上では「(a)「仕事」を優先」が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「(d)「仕事」と「家庭生活」を共に優先」が2.5ポイント上昇し、最も高くなっています。



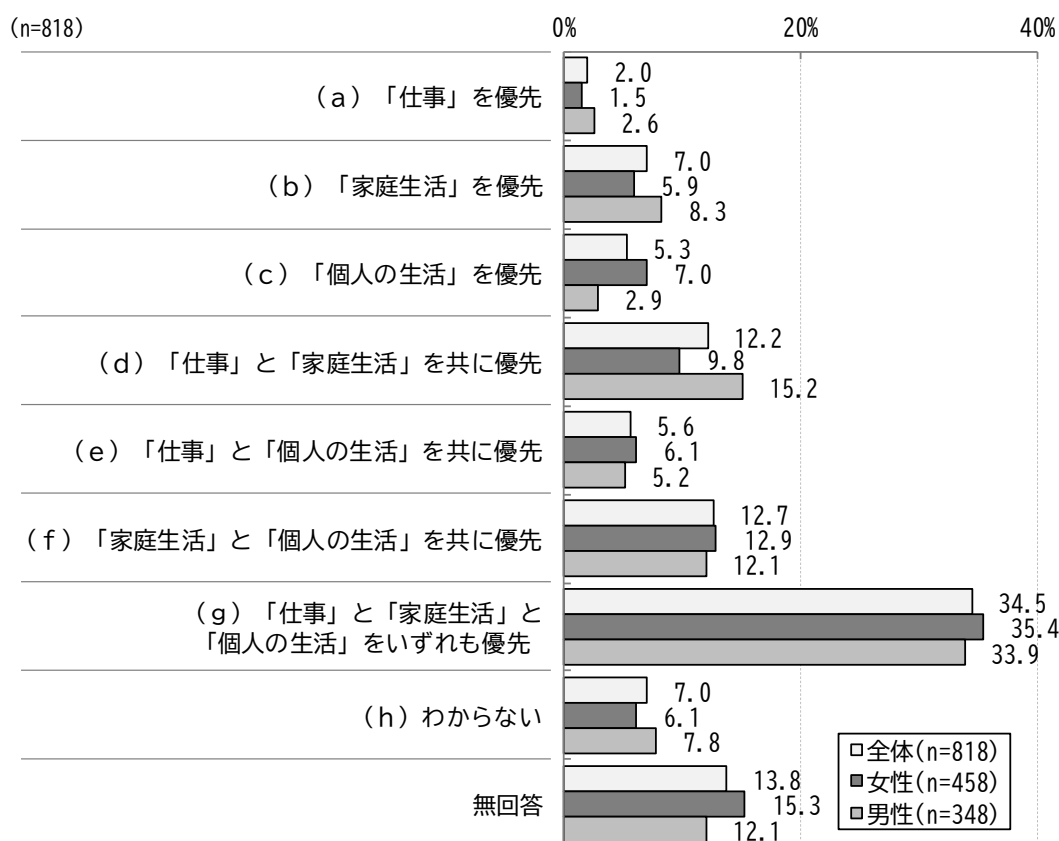
	(a)「仕事」を優先	(b)「家庭生活」を優先	(c)「個人の生活」を優先	(d)「仕事」と「家庭生活」を共に優先	(e)「仕事」と「個人の生活」を共に優先	(f)「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先	(g)「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をいずれも優先	(h)わからない	無回答
今回調査(n=818)	19.1	12.8	5.3	19.6	7.6	7.2	11.9	6.0	10.6
前回調査(n=521)	21.3	17.5	3.8	17.1	6.0	6.5	7.3	4.0	16.5
女性									
今回(n=458)	13.3	17.5	5.7	21.8	7.2	6.8	9.6	6.1	12.0
前回(n=267)	14.6	24.0	3.7	18.4	5.2	7.1	7.9	3.0	16.1
男性									
今回(n=348)	26.1	7.2	4.6	16.4	8.0	7.8	14.9	5.7	9.2
前回(n=213)	30.0	9.9	4.7	17.4	7.0	5.2	7.0	5.6	13.1
29歳以下(n=79)	15.2	2.5	11.4	16.5	19.0	2.5	13.9	12.7	6.3
30～39歳(n=93)	17.2	15.1	4.3	23.7	8.6	7.5	14.0	6.5	3.2
40～49歳(n=112)	18.8	18.8	1.8	27.7	6.3	8.0	15.2	2.7	0.9
50～59歳(n=162)	23.5	17.9	3.1	27.8	6.2	3.1	11.1	3.1	4.3
60～69歳(n=169)	19.5	8.3	4.1	16.6	7.7	8.9	14.2	7.1	13.6
70歳以上(n=195)	16.4	12.8	8.2	10.8	4.6	10.3	6.2	6.7	24.1

■ ②理想

仕事・家庭・個人生活の優先度の②理想について、性別にみると、男女ともに「(g)「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をいずれも優先」が最も高くなっています。

年代別にみると、いずれの年代でも「(g)「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をいずれも優先」が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「(g)「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をいずれも優先」が3.9ポイント低下しています。



		(a) 「仕事」を優先	(b) 「家庭生活」を優先	(c) 「個人の生活」を優先	(d) 「仕事」と「家庭生活」を共に優先	(e) 「仕事」と「個人の生活」を共に優先	(f) 「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先	(g) 「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をいずれも優先	(h) わからない	無回答
今回調査(n=818)		2.0	7.0	5.3	12.2	5.6	12.7	34.5	7.0	13.8
前回調査(n=521)		0.8	5.2	2.3	15.0	4.8	11.1	38.4	3.3	19.2
女性	今回(n=458)	1.5	5.9	7.0	9.8	6.1	12.9	35.4	6.1	15.3
	前回(n=267)	0.4	4.9	2.6	12.7	6.4	11.2	41.9	3.0	16.9
男性	今回(n=348)	2.6	8.3	2.9	15.2	5.2	12.1	33.9	7.8	12.1
	前回(n=213)	0.9	6.6	2.3	19.2	2.3	11.3	35.2	3.3	18.8
29歳以下(n=79)		0.0	7.6	2.5	13.9	8.9	19.0	32.9	8.9	6.3
30～39歳(n=93)		4.3	11.8	4.3	9.7	6.5	9.7	40.9	9.7	3.2
40～49歳(n=112)		2.7	16.1	3.6	10.7	5.4	11.6	42.9	4.5	2.7
50～59歳(n=162)		3.1	6.2	10.5	13.6	8.6	13.0	34.0	5.6	5.6
60～69歳(n=169)		0.6	4.7	5.9	8.9	4.7	9.5	42.0	6.5	17.2
70歳以上(n=195)		1.5	2.1	2.6	15.9	2.6	14.9	21.0	7.7	31.8

■ 仕事・家庭・個人生活の優先度（現状と理想のクロス集計）

以下の表では、生活の中での優先度の②理想ごとに、①現状がどのような状況になっているかを示しています。太枠の部分は②理想と①現状が一致していることを表しています。

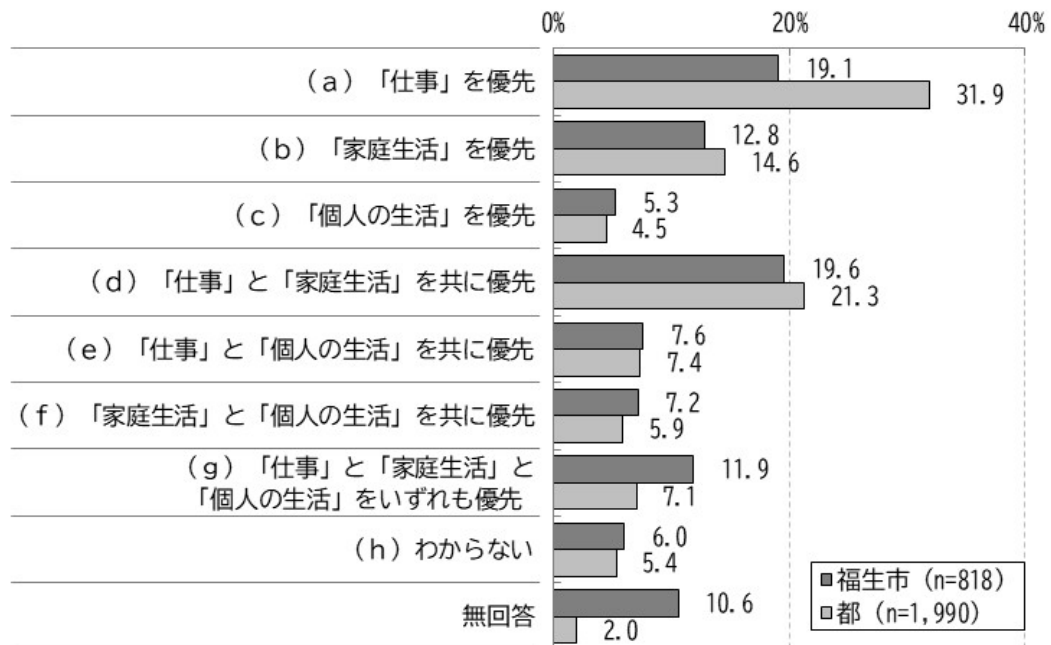
仕事・家庭・個人生活の優先度について、②理想と①現状の関係をみると、②理想と①現状が一致している割合は、「(a)「仕事」を優先」が62.5%で最も高くなっています。次いで、「(b)「家庭生活」を優先」(38.6%)、「(e)「仕事」と「個人の生活」を共に優先」(37.0%)、「(d)「仕事」と「家庭生活」を共に優先」(34.0%)の順となっています。

		n	①現状								
			(a)「仕事」を優先	(b)「家庭生活」を優先	(c)「個人の生活」を優先	(d)「仕事」と「家庭生活」を共に優先	(e)「仕事」と「個人の生活」を共に優先	(f)「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先	(g)「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をいずれも優先	(h)わからない	無回答
②理想	(a)「仕事」を優先	16	62.5	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	6.3	0.0	6.3
	(b)「家庭生活」を優先	57	22.8	38.6	0.0	22.8	5.3	3.5	3.5	0.0	3.5
	(c)「個人の生活」を優先	43	23.3	18.6	18.6	16.3	9.3	0.0	11.6	2.3	0.0
	(d)「仕事」と「家庭生活」を共に優先	100	28.0	14.0	6.0	34.0	4.0	7.0	2.0	3.0	2.0
	(e)「仕事」と「個人の生活」を共に優先	46	32.6	2.2	6.5	10.9	37.0	2.2	6.5	2.2	0.0
	(f)「家庭生活」と「個人の生活」を共に優先	104	12.5	21.2	9.6	19.2	4.8	25.0	3.8	2.9	1.0
	(g)「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をいずれも優先	282	18.1	8.5	3.9	25.5	8.5	6.4	25.2	3.2	0.7
	(h)わからない	57	7.0	5.3	5.3	7.0	7.0	5.3	8.8	52.6	1.8
無回答	113	10.6	8.0	1.8	2.7	0.9	1.8	3.5	1.8	69.0	

《都との比較》

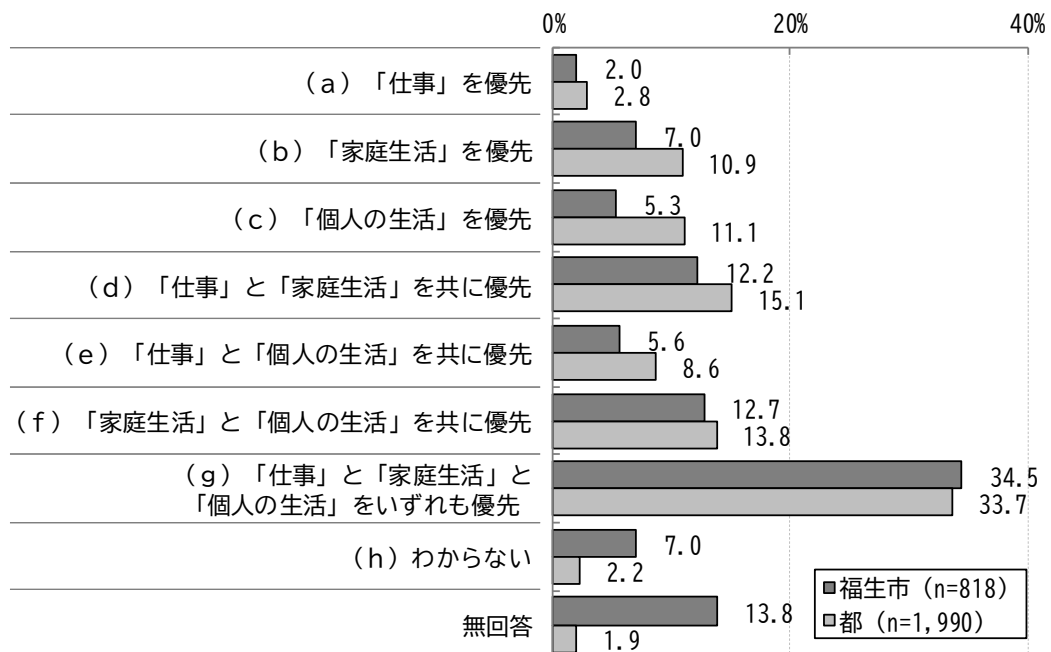
■ 都との比較（現状）

都と比較すると、現状では「(g)「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をいずれも優先」について、福生市（11.9%）が都（7.1%）と4.8ポイント上回っています。「(a)「仕事」を優先」について、福生市（19.1%）が都（31.9%）を12.8ポイント上回っています。



■ 都との比較（理想）

都と比較すると、理想では「(c)「個人の生活」を優先」について、福生市（5.3%）が都（11.1%）を5.8ポイント下回っています。



※東京都「男女平等参画に関する世論調査（令和3年3月）」

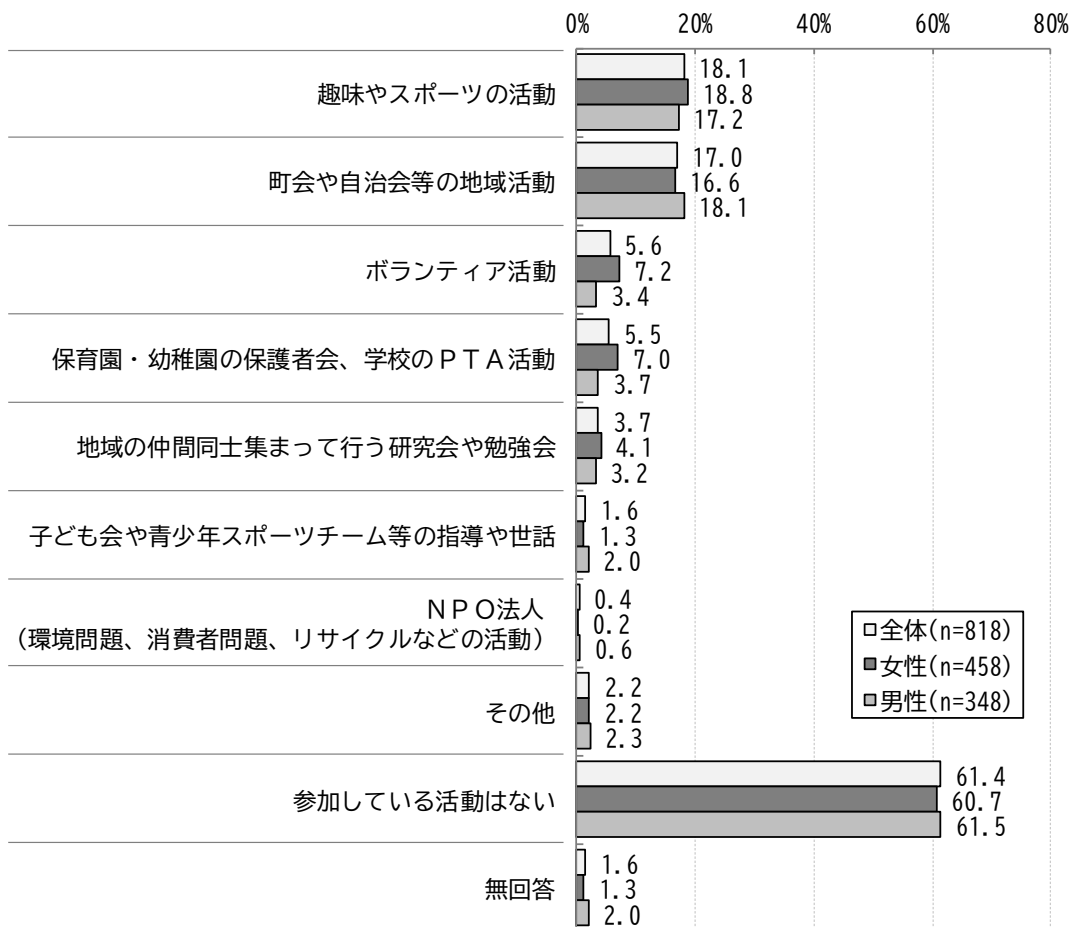
3 地域・社会参加について

(13) 地域活動への参加状況

問5 地域活動の中であなたが現在参加しているものをお答えください。(〇はいくつでも)

地域活動への参加状況について、「参加している活動はない」(61.4%)が最も高くなっています。活動内容としては、「趣味やスポーツの活動」(18.1%)が最も高く、次いで「町会や自治会等の地域活動」(17.0%)となっています。

性別にみると、男女の参加割合に大きな差はみられません。



年代別にみると、いずれの年代でも「参加している活動はない」が最も多くなっています。

前回調査と比較すると、「町会や自治会等の地域活動」について 8.1 ポイント、「趣味やスポーツの活動」が 7.0 ポイント低下しており、「参加している活動はない」が 15.9 ポイント増加しています。

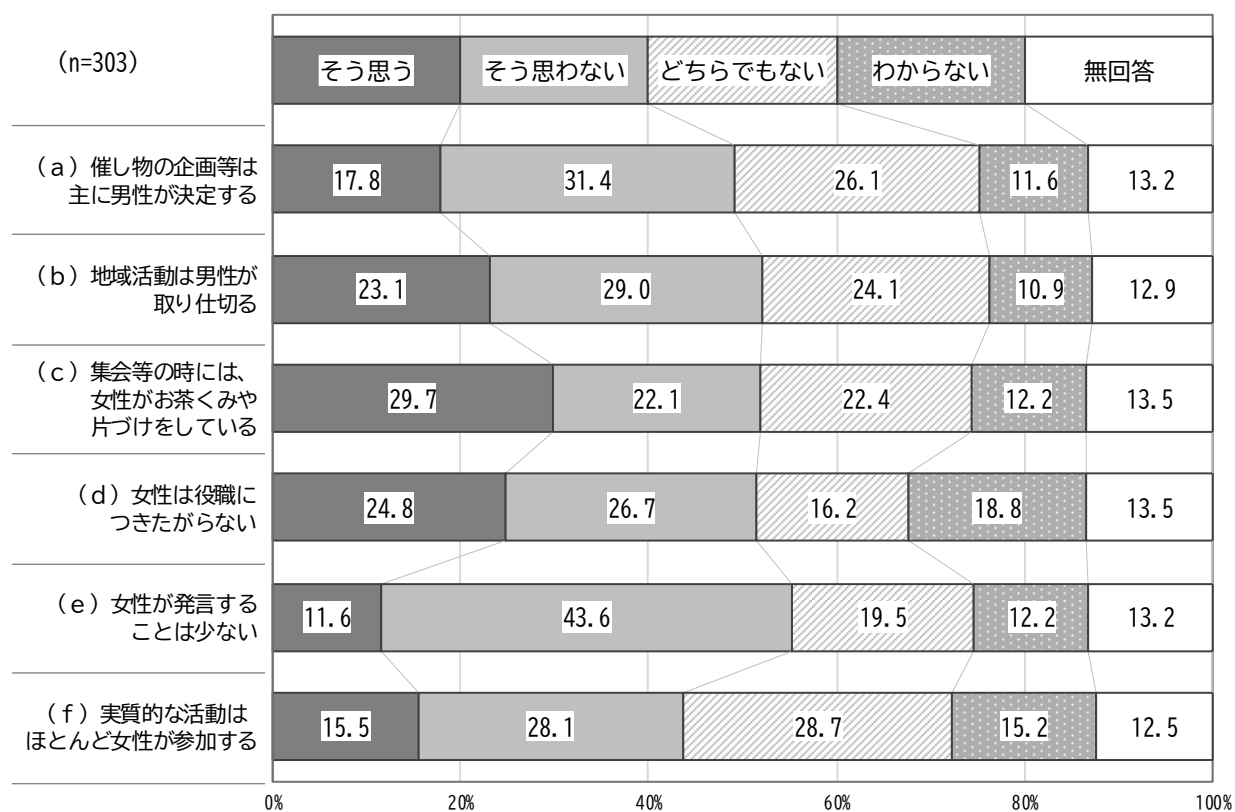
	趣味やスポーツの活動	町会や自治会等の地域活動	ボランティア活動	保育園・幼稚園の保護者会、学校のPTA活動	地域の仲間同士集まって行う研究会や勉強会	子ども会や青少年スポーツチーム等の指導や世話	NPO法人（環境問題、消費者問題、リサイクルなどの活動）	その他	参加している活動はない	無回答
今回調査(n=818)	18.1	17.0	5.6	5.5	3.7	1.6	0.4	2.2	61.4	1.6
前回調査(n=521)	25.1	25.1	3.3	7.7	3.5	4.0	1.2	3.3	45.5	7.3
女性	今回(n=458)	18.8	16.6	7.2	7.0	4.1	0.2	2.2	60.7	1.3
	前回(n=267)	27.3	26.2	3.0	12.4	3.4	0.4	4.5	41.6	6.7
男性	今回(n=348)	17.2	18.1	3.4	3.7	3.2	0.6	2.3	61.5	2.0
	前回(n=213)	23.0	23.5	3.3	2.3	2.8	1.4	1.4	52.6	6.6
29歳以下(n=79)	12.7	2.5	3.8	5.1	0.0	1.3	0.0	1.3	79.7	0.0
30～39歳(n=93)	7.5	8.6	0.0	16.1	1.1	3.2	0.0	4.3	67.7	2.2
40～49歳(n=112)	17.0	13.4	6.3	17.0	1.8	2.7	0.0	1.8	56.3	0.9
50～59歳(n=162)	13.6	12.3	4.3	3.7	3.7	2.5	1.2	0.0	70.4	1.2
60～69歳(n=169)	18.3	21.3	7.1	0.6	3.0	0.6	0.0	1.8	59.8	3.0
70歳以上(n=195)	28.7	29.2	8.2	0.0	8.2	0.5	0.5	4.1	48.2	1.5

(14) 地域活動における男女の役割意識

【問5で（参加している地域活動がある）を選択した方】

問5-1 あなたが参加している地域活動の現状について、あてはまる考えをお答えください。（aからfそれぞれ〇は1つ）

地域活動における男女の役割意識について、性別による偏りがみられると思う内容のうち、「そう思う」の割合が最も高いのは「(c) 集会等の時には、女性がお茶くみや片づけをしている」(29.7%)であり、次いで「(d) 女性は役職につきたがらない」(24.8%)、「(b) 地域活動は男性が取り仕切る」(23.1%)となっています。



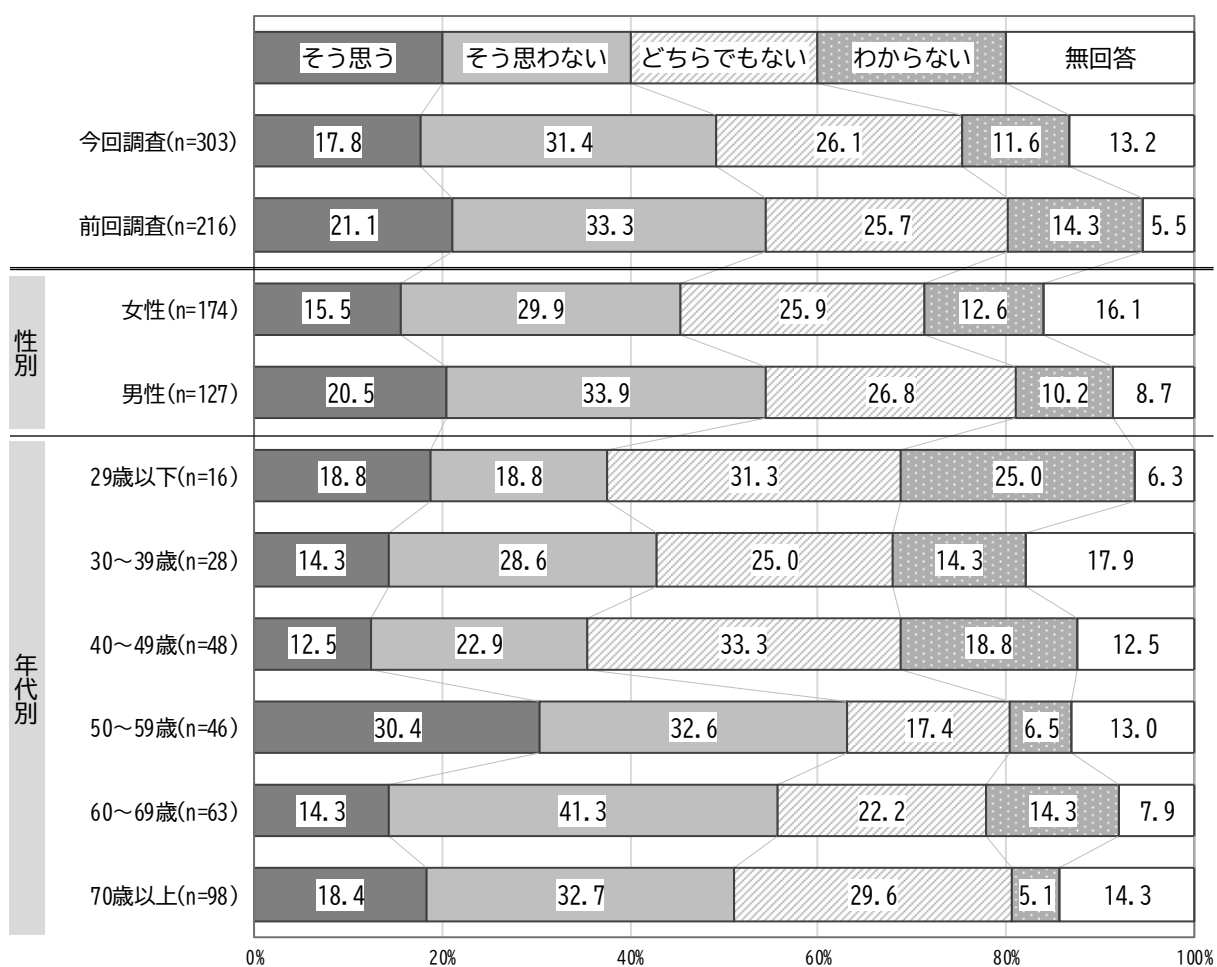
■ (a) 催し物の企画等は主に男性が決定する

催し物の企画等は主に男性が決定するについて、「そう思わない」の割合が高く、「そう思う」を13.6ポイント上回っています。

性別にみると、「そう思う」と回答した割合は男性(20.5%)が女性(15.5%)を5.0ポイント上回っています。一方で、「そう思わない」についても男性(33.9%)が女性(29.9%)を4.0ポイント上回っています。

年代別にみると、「そう思う」の割合は50~59歳が全年代で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「そう思う」が3.3ポイント低下しています。



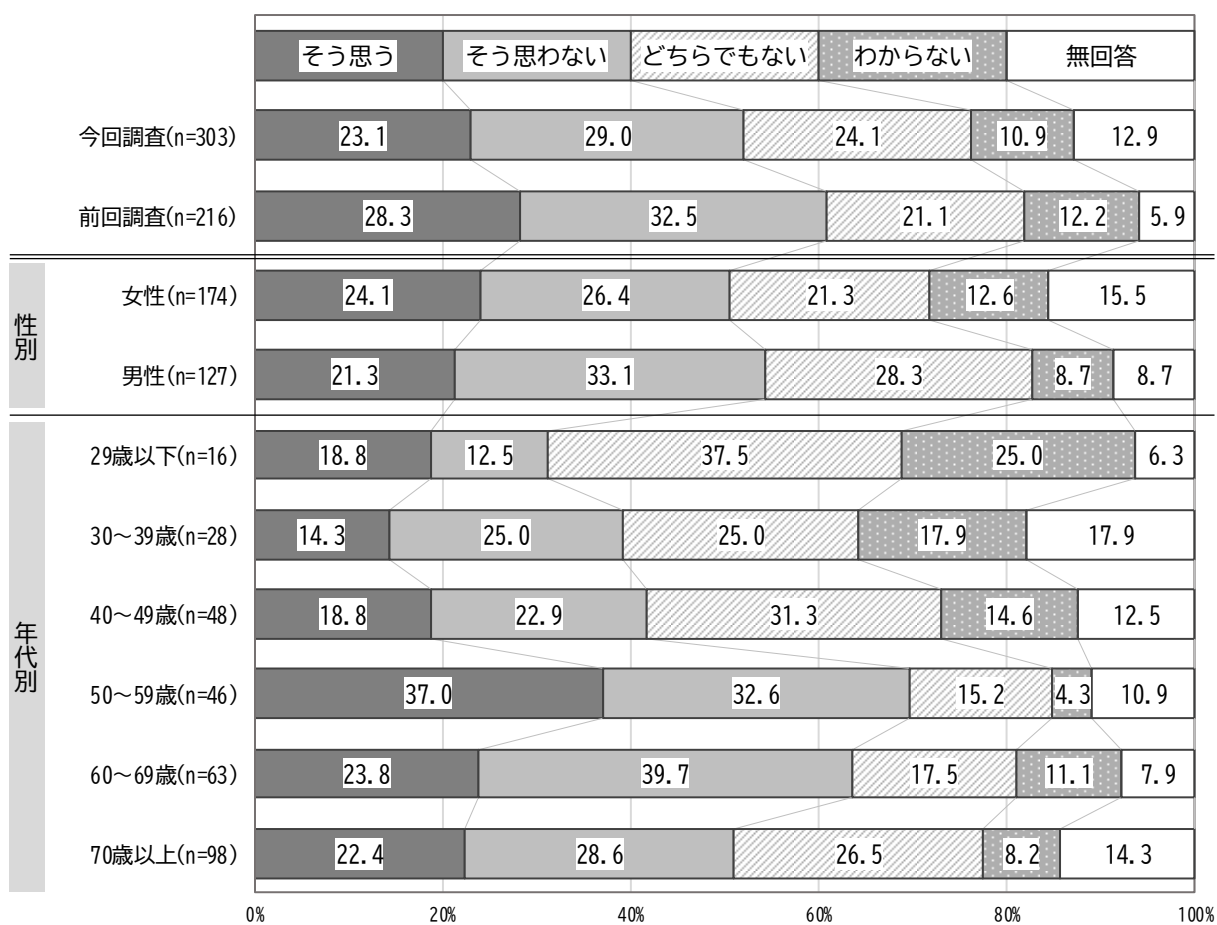
■ (b) 地域活動は男性が取り仕切る

地域活動は男性が取り仕切るについて、「そう思わない」の割合が高く、「そう思う」を5.9ポイント上回っています。

性別にみると、「そう思う」と回答した割合は女性(24.1%)が男性(21.3%)を2.8ポイント上回っています。一方で、「そう思わない」については男性(33.1%)が女性(26.4%)を6.7ポイント上回っています。

年代別にみると、「そう思う」の割合は50～59歳が全年代で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「そう思う」が5.2ポイント低下しています。



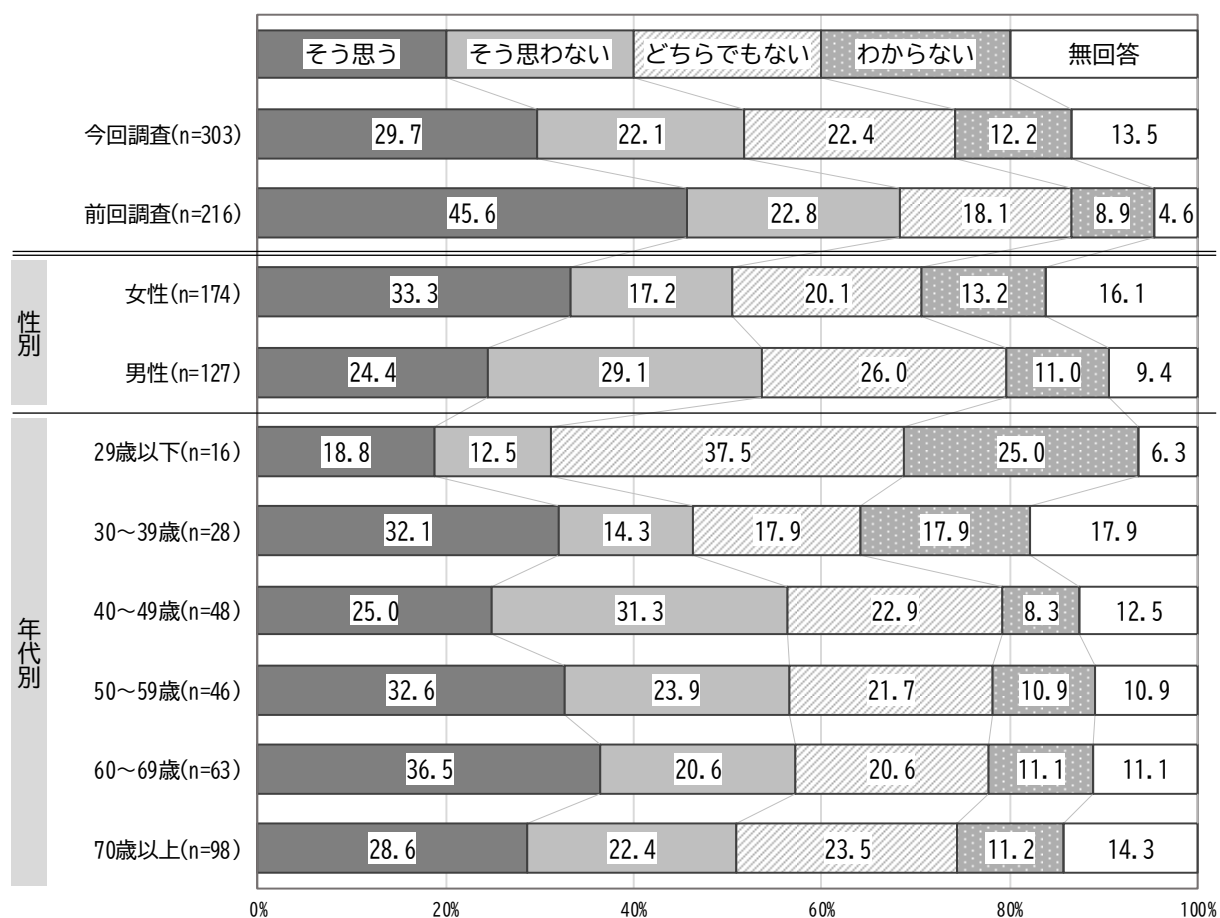
■ (c) 集会等の時には、女性がお茶くみや片づけをしている

集会等の時には、女性がお茶くみや片づけをしているについて、「そう思う」の割合が高く、「そう思わない」を7.6ポイント上回っています。

性別にみると、「そう思う」と回答した割合は女性(33.3%)が男性(24.4%)を8.9ポイント上回っています。一方で、「そう思わない」については男性(29.1%)が女性(17.2%)を11.9ポイント上回っています。

年代別にみると、「そう思う」の割合は60～69歳が全年代で最も高く、次いで50～59歳となっています。

前回調査と比較すると、「そう思う」が15.9ポイント低下しています。



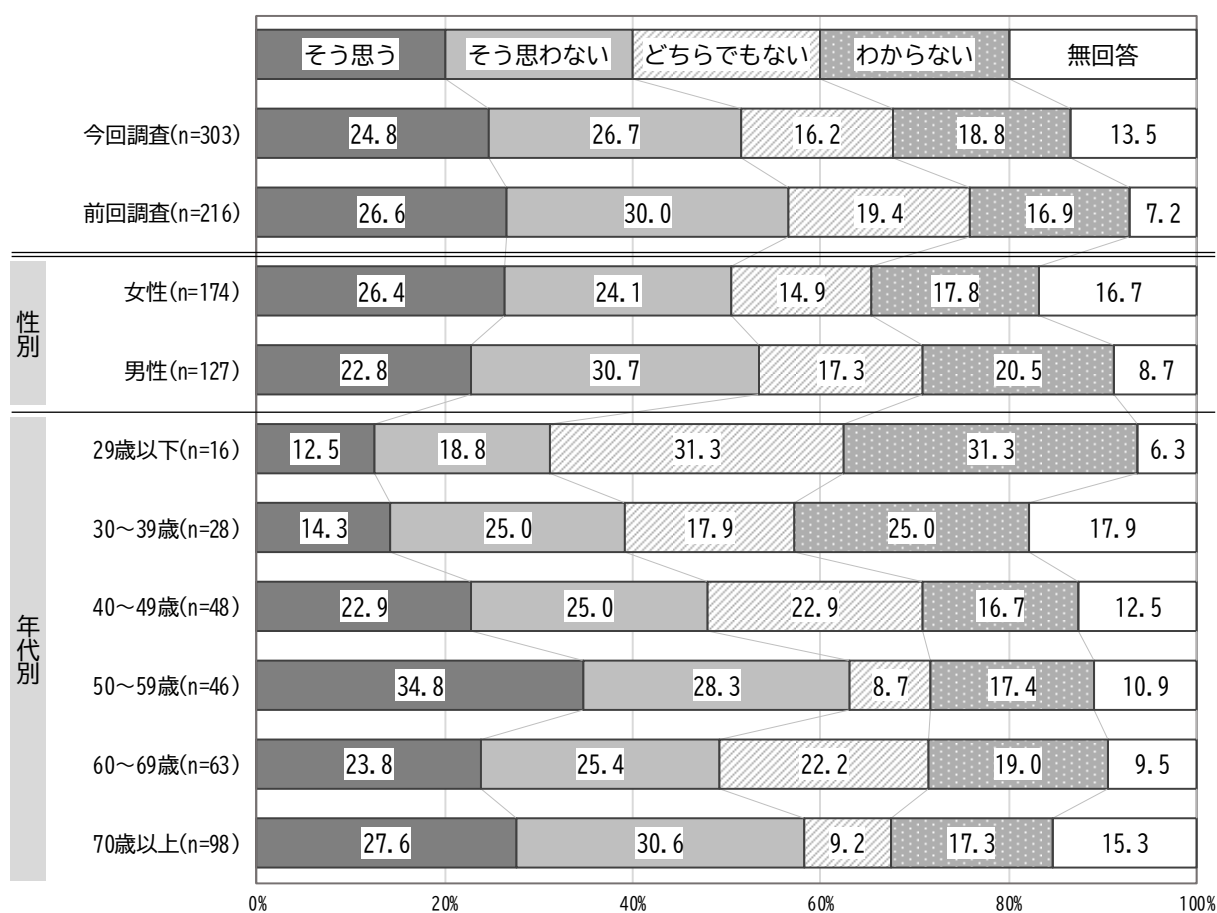
■ (d) 女性は役職につきたがらない

女性は役職につきたがらないについて、「そう思わない」の割合が高く、「そう思う」を1.9ポイント上回っています。

性別にみると、「そう思う」と回答した割合は女性(26.4%)が男性(22.8%)を3.6ポイント上回っています。一方で、「そう思わない」については男性(30.7%)が女性(24.1%)を6.6ポイント上回っています。

年代別にみると、「そう思う」の割合は50～59歳が全年代で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「そう思わない」が3.3ポイント低下しています。



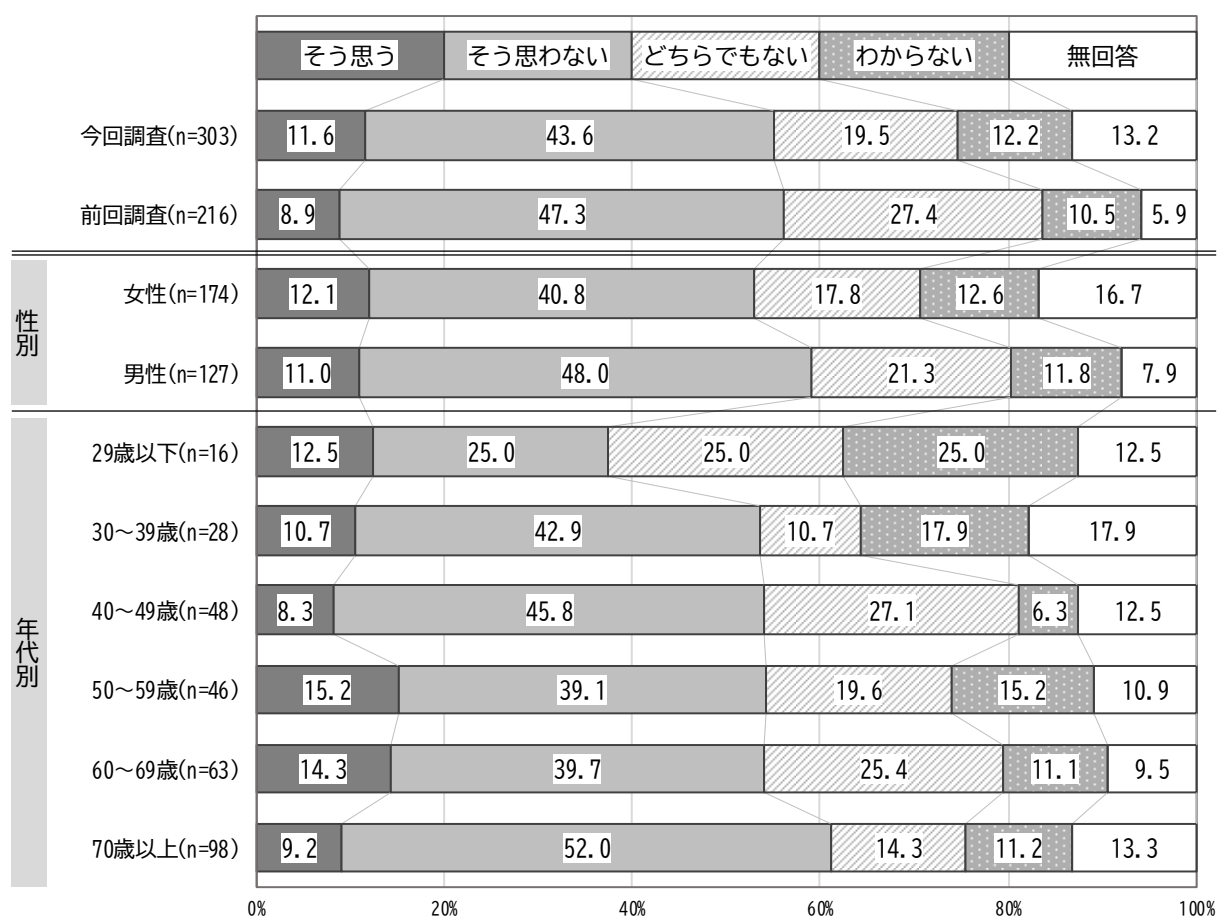
■ (e) 女性が発言することは少ない

女性が発言することは少ないについて、「そう思わない」の割合が高く、「そう思う」を32ポイント上回っています。

性別にみると、「そう思う」と回答した割合は女性(12.1%)が男性(11.0%)を1.1ポイント上回っています。一方で、「そう思わない」については男性(48.0%)が女性(40.8%)を7.2ポイント上回っています。

年代別にみると、「そう思う」の割合は50～59歳が全年代で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「そう思わない」が3.7ポイント低下しています。



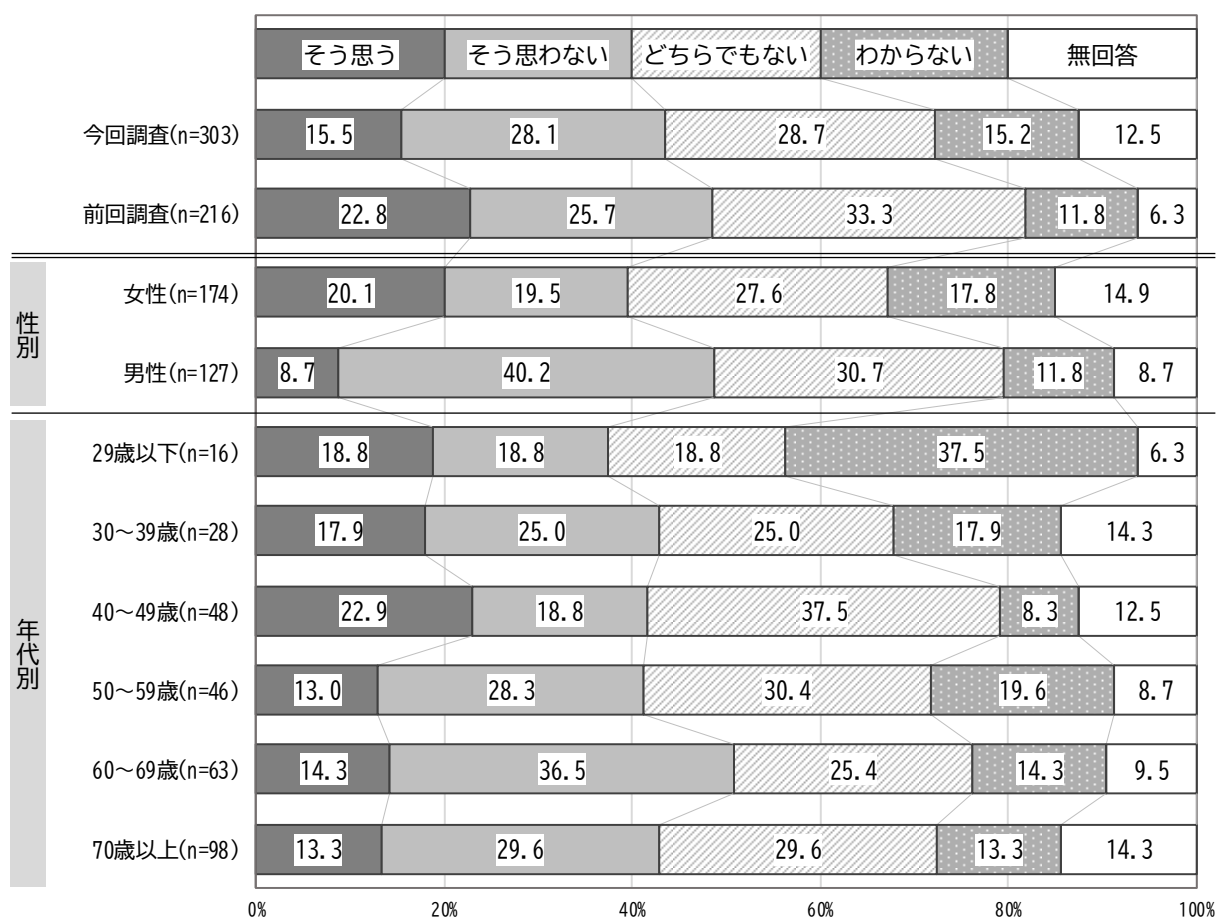
■ (f) 実質的な活動はほとんど女性が参加する

実質的な活動はほとんど女性が参加するについて、「そう思わない」の割合が高く、「そう思う」を12.6ポイント上回っています。

性別にみると、「そう思う」と回答した割合は女性(20.1%)が男性(8.7%)を11.4ポイント上回っています。一方で、「そう思わない」については男性(40.2%)が女性(19.5%)を20.7ポイント上回っており、男女間で実態に対する認識に差がみられます。

年代別にみると、「そう思う」の割合は40~49歳が全年代で最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「そう思う」が7.3ポイント低下しています。

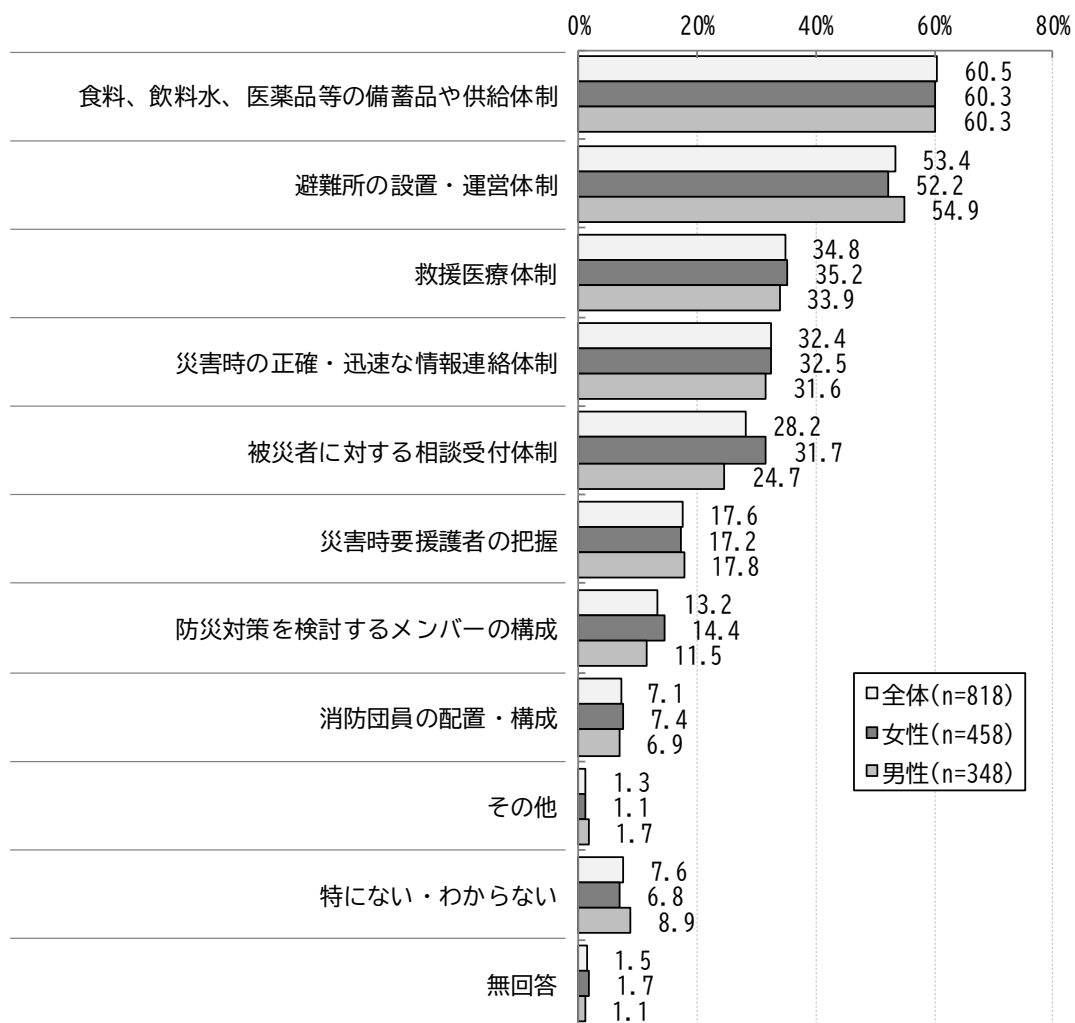


(15) 災害対応において性別配慮が必要な取組

問6 東日本大震災や能登半島地震等の発生により、男女共同参画の視点からの災害対応の重要性が高まっています。防災・災害復興対策において性別に配慮して、取り組むべきことは何だと思えますか。(〇は3つまで)

災害対応において性別配慮が必要な取組について、「食料、飲料水、医薬品等の備蓄品や供給体制」(60.5%)が最も高く、次いで「避難所の設置・運営体制」(53.4%)、「救援医療体制」(34.8%)となっています。

性別にみると、「被災者に対する相談受付体制」は女性の方の割合がやや高くなっています。



年代別にみると、29歳以下では「避難所の設置・運営体制」が最も高いのに対し、30代以上のすべての年代では「食料、飲料水、医薬品等の備蓄品や供給体制」が最も高くなっています。また、70歳以上では「災害時の正確・迅速な情報連絡体制」が47.2%と、他の年代に比べて高い傾向にあります。

前回調査と比較すると、「食料、飲料水、医薬品等の備蓄品や供給体制」が25.0ポイント、「救援医療体制」が9.8ポイント上昇している一方で、「防災対策を検討するメンバーの構成」は8.5ポイント低下しています。

	食料、飲料水、医薬品等の備蓄品や供給体制	避難所の設置・運営体制	救援医療体制	災害時の正確・迅速な情報連絡体制	被災者に対する相談受付体制	災害時要援護者の把握	防災対策を検討するメンバーの構成	消防団員の配置・構成	その他	
今回調査(n=818)	60.5	53.4	34.8	32.4	28.2	17.6	13.2	7.1	1.3	
前回調査(n=521)	35.5	48.0	25.0	33.6	33.0	21.1	21.7	9.6	2.7	
女性	今回(n=458)	60.3	52.2	35.2	32.5	31.7	17.2	14.4	7.4	1.1
	前回(n=267)	40.4	46.8	23.6	30.3	38.2	18.7	21.7	9.4	2.2
男性	今回(n=348)	60.3	54.9	33.9	31.6	24.7	17.8	11.5	6.9	1.7
	前回(n=213)	31.9	49.8	26.8	37.1	27.2	22.5	21.6	9.9	2.8
29歳以下(n=79)	55.7	59.5	24.1	17.7	19.0	17.7	15.2	21.5	2.5	
30～39歳(n=93)	61.3	54.8	36.6	24.7	29.0	14.0	6.5	9.7	2.2	
40～49歳(n=112)	67.0	58.0	36.6	23.2	33.0	12.5	15.2	8.0	3.6	
50～59歳(n=162)	63.6	55.6	37.7	27.8	29.6	11.1	17.9	7.4	0.6	
60～69歳(n=169)	53.3	45.6	41.4	35.5	33.7	23.1	11.8	2.4	0.6	
70歳以上(n=195)	62.1	52.8	30.3	47.2	24.1	22.6	11.8	3.6	0.5	

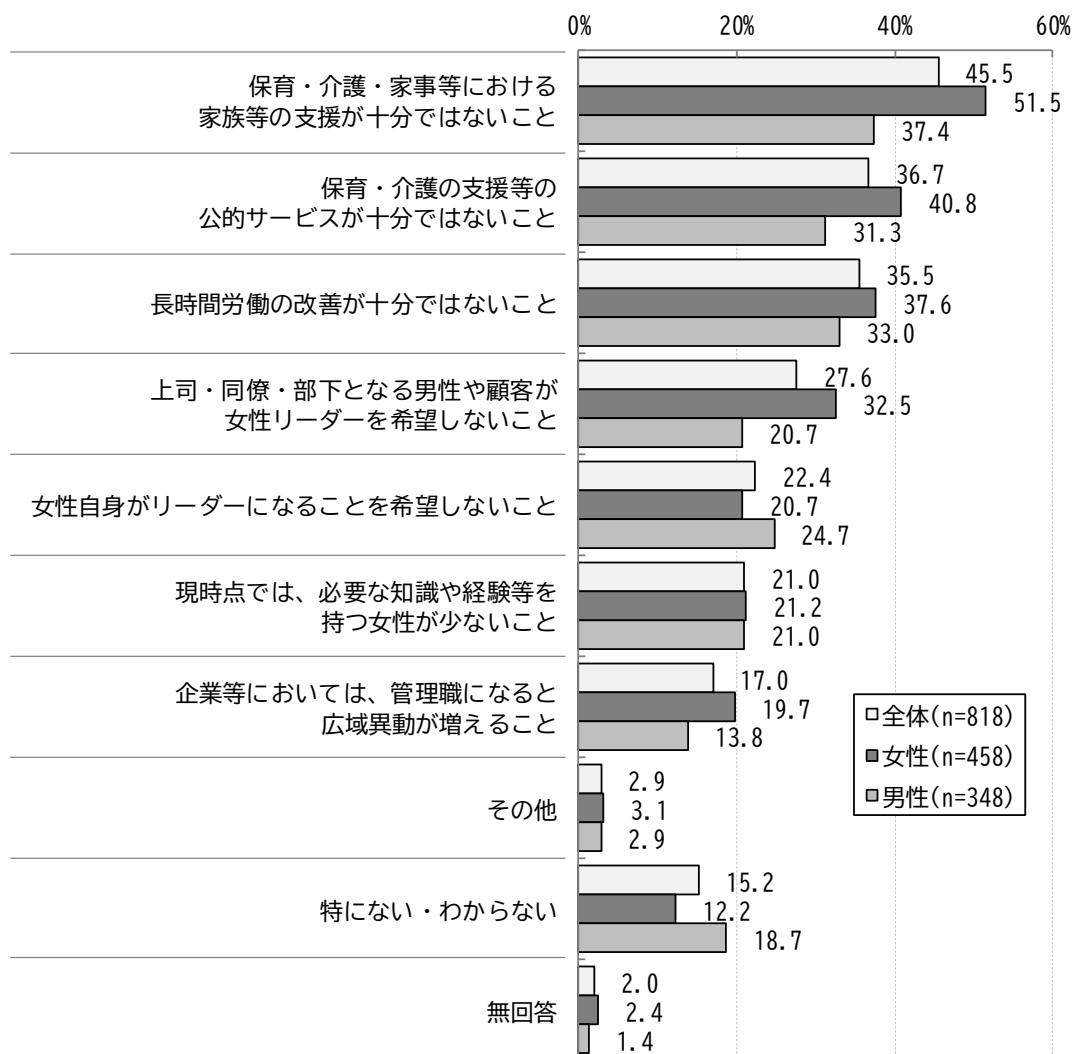
	特にない・わからない	無回答	
今回調査(n=818)	7.6	1.5	
前回調査(n=521)	9.4	3.3	
女性	今回(n=458)	6.8	1.7
	前回(n=267)	9.0	2.6
男性	今回(n=348)	8.9	1.1
	前回(n=213)	8.9	3.8
29歳以下(n=79)	8.9	1.3	
30～39歳(n=93)	10.8	1.1	
40～49歳(n=112)	7.1	0.0	
50～59歳(n=162)	6.8	0.0	
60～69歳(n=169)	8.9	3.0	
70歳以上(n=195)	5.1	2.6	

(16) 女性リーダーを増やすうえでの障害

問7 政治・経済・地域等の各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いませんか。(〇はいくつでも)

女性リーダーを増やすうえでの障害について、「保育・介護・家事等における家族等の支援が十分ではないこと」(45.5%)が最も高く、次いで「保育・介護の支援等の公的サービスが十分ではないこと」(36.7%)、「長時間労働の改善が十分ではないこと」(35.5%)となっています。

性別にみると、「保育・介護・家事等における家族等の支援が十分ではないこと」、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」、「保育・介護の支援等の公的サービスが十分ではないこと」について、女性の方が男性より高くなっています。



年代別にみると、29歳以下では「長時間労働の改善が十分ではないこと」が最も高いのに対し、30歳以上では「保育・介護・家事等における家族等の支援が十分ではないこと」が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「保育・介護・家事等における家族等の支援が十分ではないこと」が6.1ポイント、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が7.1ポイント低下しています。

	保育・介護・家事等における家族等の支援が十分ではないこと	保育・介護の支援等の公的サービスが十分ではないこと	長時間労働の改善が十分ではないこと	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	現時点では、必要な知識や経験等を持つ女性が少ないこと	企業等においては、管理職になると広域異動が増えること	その他	
今回調査(n=818)	45.5	36.7	35.5	27.6	22.4	21.0	17.0	2.9	
前回調査(n=521)	51.6	39.2	35.9	34.7	24.6	22.3	18.8	2.9	
女性	今回(n=458)	51.5	40.8	37.6	32.5	20.7	21.2	19.7	3.1
	前回(n=267)	58.8	40.8	37.8	43.4	22.8	25.5	19.9	2.6
男性	今回(n=348)	37.4	31.3	33.0	20.7	24.7	21.0	13.8	2.9
	前回(n=213)	45.5	35.2	33.3	23.5	27.7	20.2	17.4	2.8
29歳以下(n=79)	36.7	31.6	41.8	26.6	17.7	13.9	13.9	6.3	
30～39歳(n=93)	49.5	43.0	37.6	32.3	21.5	16.1	15.1	4.3	
40～49歳(n=112)	50.9	29.5	32.1	33.0	25.0	15.2	16.1	6.3	
50～59歳(n=162)	50.6	36.4	38.3	34.0	21.6	21.0	16.7	2.5	
60～69歳(n=169)	43.2	41.4	34.3	24.3	21.9	22.5	23.1	1.8	
70歳以上(n=195)	41.5	35.9	33.3	20.5	24.1	27.7	15.4	0.5	

	特にない・わからない	無回答	
今回調査(n=818)	15.2	2.0	
前回調査(n=521)	10.0	5.0	
女性	今回(n=458)	12.2	2.4
	前回(n=267)	6.3	4.9
男性	今回(n=348)	18.7	1.4
	前回(n=213)	11.7	4.7
29歳以下(n=79)	20.3	1.3	
30～39歳(n=93)	9.7	4.3	
40～49歳(n=112)	14.3	0.0	
50～59歳(n=162)	13.6	0.6	
60～69歳(n=169)	18.3	3.0	
70歳以上(n=195)	14.9	2.1	

4 勤務状況について

(17) 週あたりの労働時間

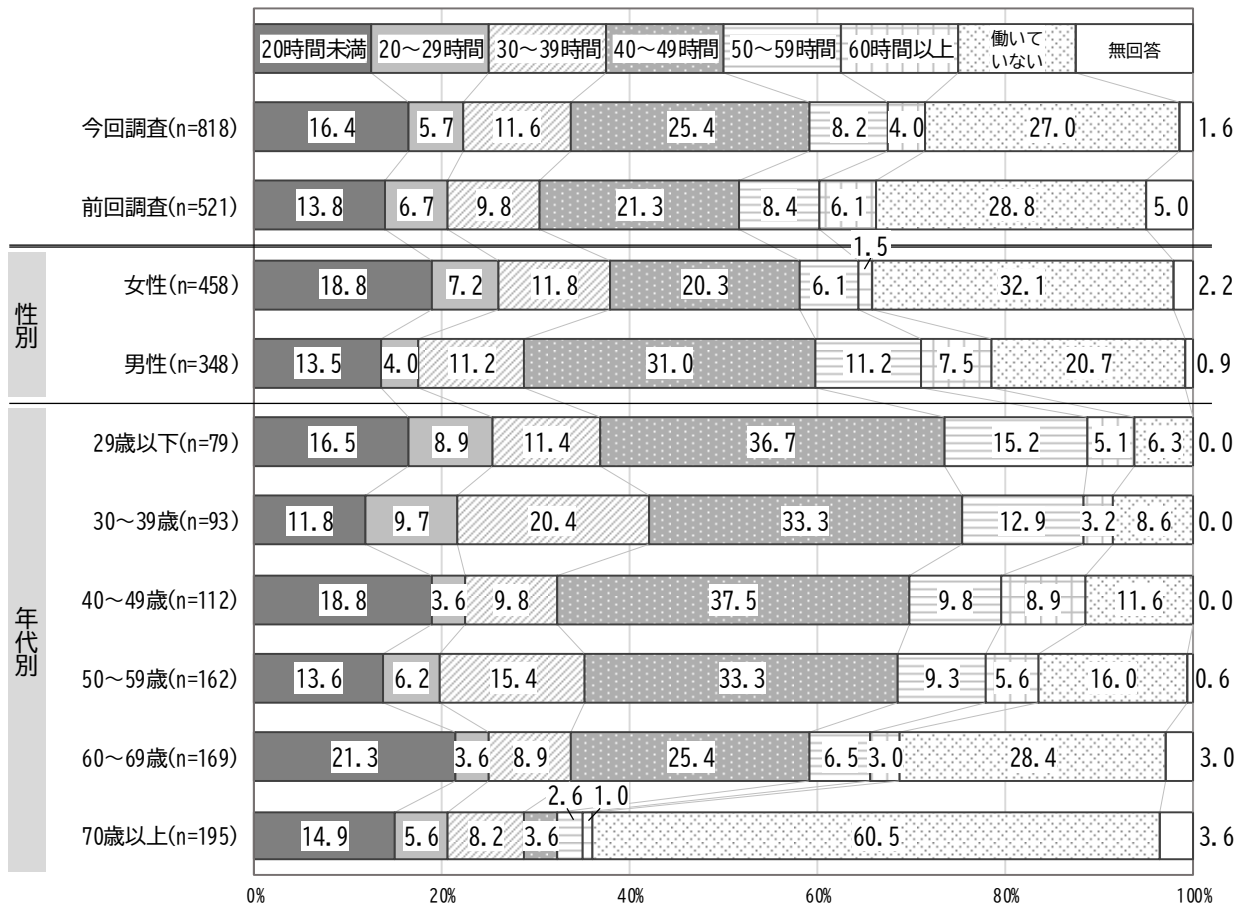
問8 あなたは、1週間でおよそ何時間くらい（残業時間も含む）働いていますか。（○は1つ）

週あたりの労働時間について、「働いていない」（27.0%）が最も高く、次いで「40～49時間」（25.4%）、「20時間未満」（16.4%）となっています。

性別にみると、男性の方が長時間働いている割合が高く、週50時間以上働いている人は女性より多くなっています。一方、女性では週30時間未満の割合が高く、短時間就労の傾向がみられます。

年代別にみると、29歳以下から50～59歳までの年代では「40～49時間」が最も高くなっています。一方、70歳以上では「働いていない」が60.5%と過半数を占めています。また、29歳以下では週50時間以上の長時間労働層が20.3%に達し、他の年代よりも高い割合となっています。

前回調査と比較すると、全体として「40～49時間」が4.1ポイント上昇しています。



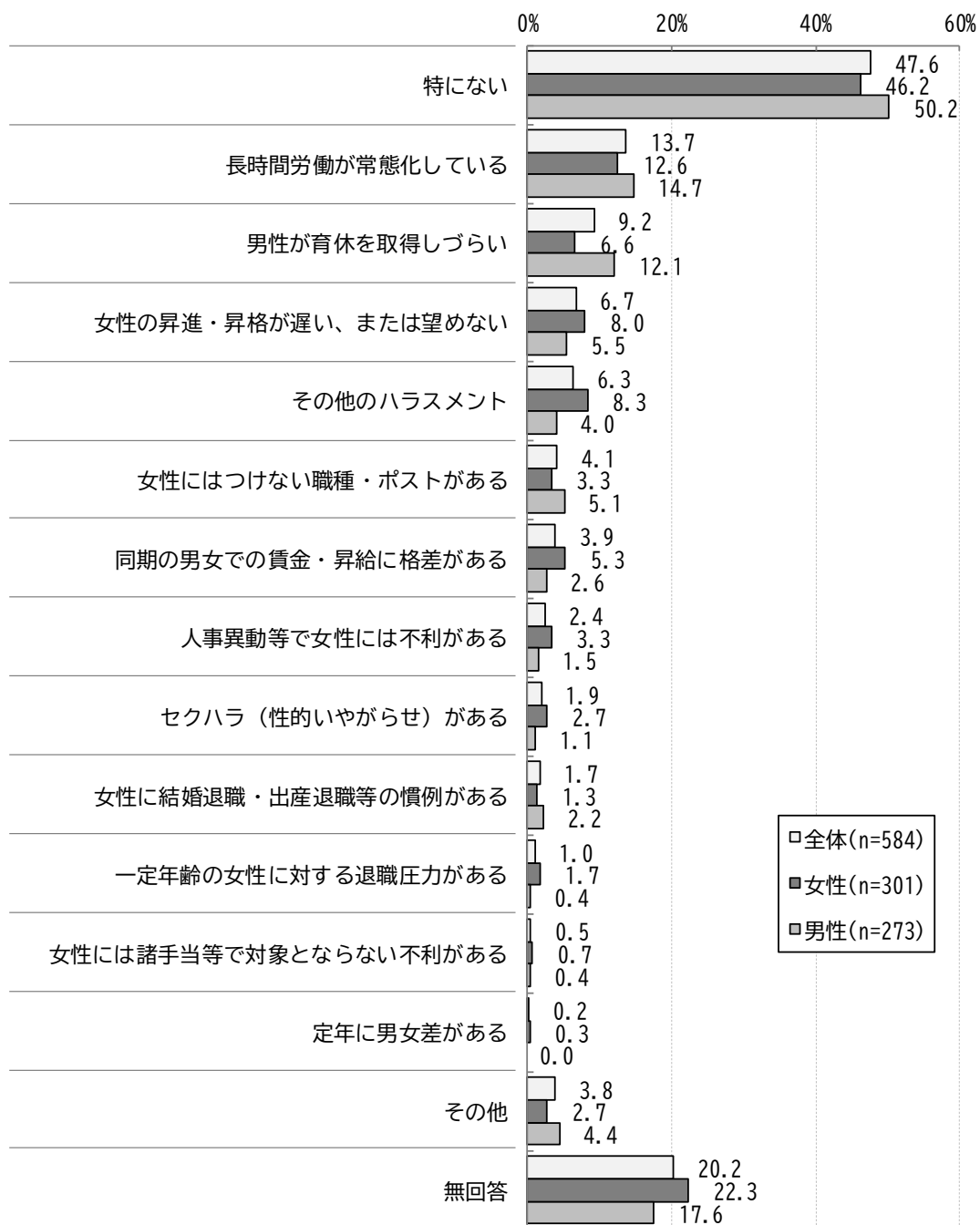
(18) 職場における男女の格差や問題の有無

【問8で（働いていない）以外のいずれかを選択した方】

問8-1 あなたの職場では現在、次にあげるような問題がありますか。（〇はいくつでも）

職場における男女の格差や問題の有無について、「特にない」（47.6%）が最も高くなっています。問題の内容としては、「長時間労働が常態化している」（13.7%）が最も高く、次いで「男性が育休を取得しづらい」（9.2%）、「女性の昇進・昇格が遅い、または望めない」（6.7%）となっています。

性別にみると、「男性が育休を取得しづらい」は男性の方が、「その他のハラスメント」は女性の方が高くなっています。



年代別にみると、いずれの年代でも「特にない」が最も高い割合を占めていますが、具体的な問題点としては、39歳以下で「長時間労働が常態化している」や「男性が育休を取得しづらい」が高くなっています。また、40～49歳では「女性の昇進・昇格が遅い、または望めない」が高くなっています。

前回調査と比較すると、「長時間労働が常態化している」が7.5ポイント、「男性が育休を取得しづらい」が11.4ポイント低下しています。

	特にない	長時間労働が常態化している	男性が育休を取得しづらい	女性の昇進・昇格が遅い、または望めない	その他のハラスメント	女性にはつけない職種・ポストがある	同期の男女での賃金・昇給に格差がある	人事異動等で女性には不利がある	セクハラ（性的いやがらせ）がある	
今回調査(n=584)	47.6	13.7	9.2	6.7	6.3	4.1	3.9	2.4	1.9	
前回調査(n=345)	49.3	21.2	20.6	11.3	-	6.7	6.4	4.3	1.7	
女性	今回(n=301)	46.2	12.6	6.6	8.0	8.3	3.3	5.3	3.3	2.7
	前回(n=174)	56.3	17.2	11.5	10.9	-	3.4	7.5	3.4	2.3
男性	今回(n=273)	50.2	14.7	12.1	5.5	4.0	5.1	2.6	1.5	1.1
	前回(n=147)	40.8	25.9	32.7	12.2	-	10.2	4.1	4.8	1.4
29歳以下(n=74)	39.2	23.0	16.2	5.4	6.8	2.7	4.1	5.4	0.0	
30～39歳(n=85)	40.0	23.5	18.8	3.5	9.4	3.5	3.5	2.4	3.5	
40～49歳(n=99)	46.5	14.1	7.1	15.2	7.1	5.1	7.1	5.1	3.0	
50～59歳(n=135)	45.2	11.9	5.9	6.7	8.1	4.4	4.4	2.2	2.2	
60～69歳(n=116)	56.9	6.9	6.0	2.6	3.4	6.0	0.9	0.0	0.9	
70歳以上(n=70)	57.1	5.7	4.3	7.1	2.9	0.0	4.3	0.0	1.4	

	女性に結婚退職・出産退職等の慣例がある	一定年齢の女性に対する退職圧力がある	女性には諸手当等で対象とならない不利がある	定年に男女差がある	その他	無回答	
今回調査(n=584)	1.7	1.0	0.5	0.2	3.8	20.2	
前回調査(n=345)	2.3	2.9	2.6	0.9	6.4	4.9	
女性	今回(n=301)	1.3	1.7	0.7	0.3	2.7	22.3
	前回(n=174)	2.9	3.4	3.4	1.1	8.0	6.3
男性	今回(n=273)	2.2	0.4	0.4	0.0	4.4	17.6
	前回(n=147)	1.4	2.7	1.4	0.0	4.8	2.7
29歳以下(n=74)	1.4	0.0	0.0	0.0	1.4	23.0	
30～39歳(n=85)	3.5	0.0	1.2	0.0	7.1	12.9	
40～49歳(n=99)	3.0	3.0	0.0	0.0	2.0	20.2	
50～59歳(n=135)	0.0	0.0	0.7	0.7	4.4	20.7	
60～69歳(n=116)	1.7	0.9	0.9	0.0	4.3	19.8	
70歳以上(n=70)	1.4	2.9	0.0	0.0	2.9	24.3	

(19) 女性の望ましい職業継続のあり方

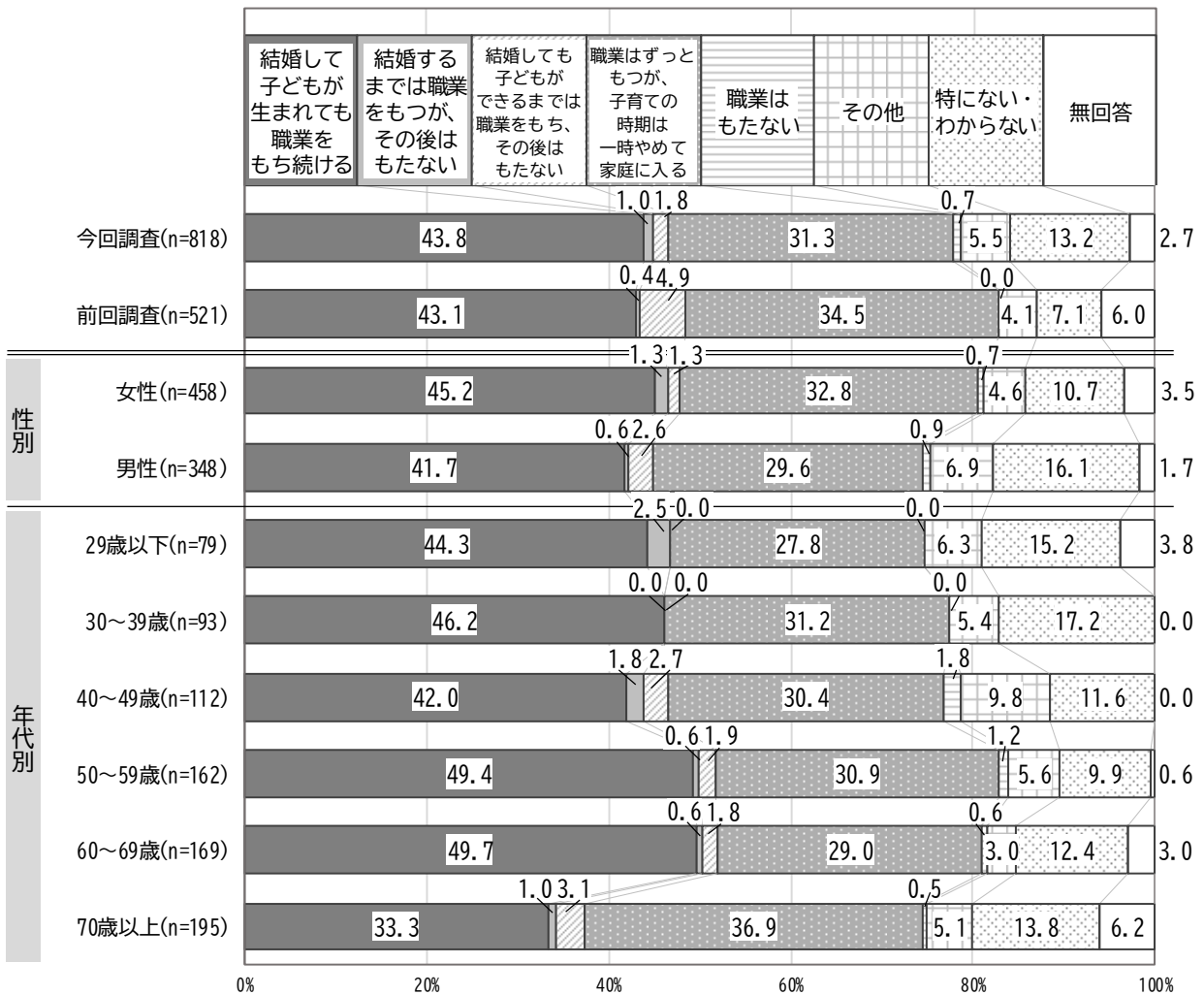
問9 あなたは、女性と職業の望ましい関わり方についてどう思いますか。(〇は1つ)

女性の望ましい職業継続のあり方について、「結婚して子どもが生まれても職業をもち続ける」(43.8%)が最も高く、次いで「職業はずっともつが、子育ての時期は一時やめて家庭に入る」(31.3%)となっています。

性別にみると、大きな差はみられません。

年代別にみると、69歳以下において「結婚して子どもが生まれても職業をもち続ける」が最も高くなっており、70歳以上では「職業はずっともつが、子育ての時期は一時やめて家庭に入る」が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「結婚しても子どもができるまでは職業をもち、その後はもたない」が3.1ポイント、「職業はずっともつが、子育ての時期は一時やめて家庭に入る」が3.2ポイント低下しています。



(20) 育児休業・介護休業の取得状況と予定

問 10 あなたは、育児休業・介護休業を取得しましたか。また、今後取得する予定がありますか。(①と②それぞれ〇は1つ)

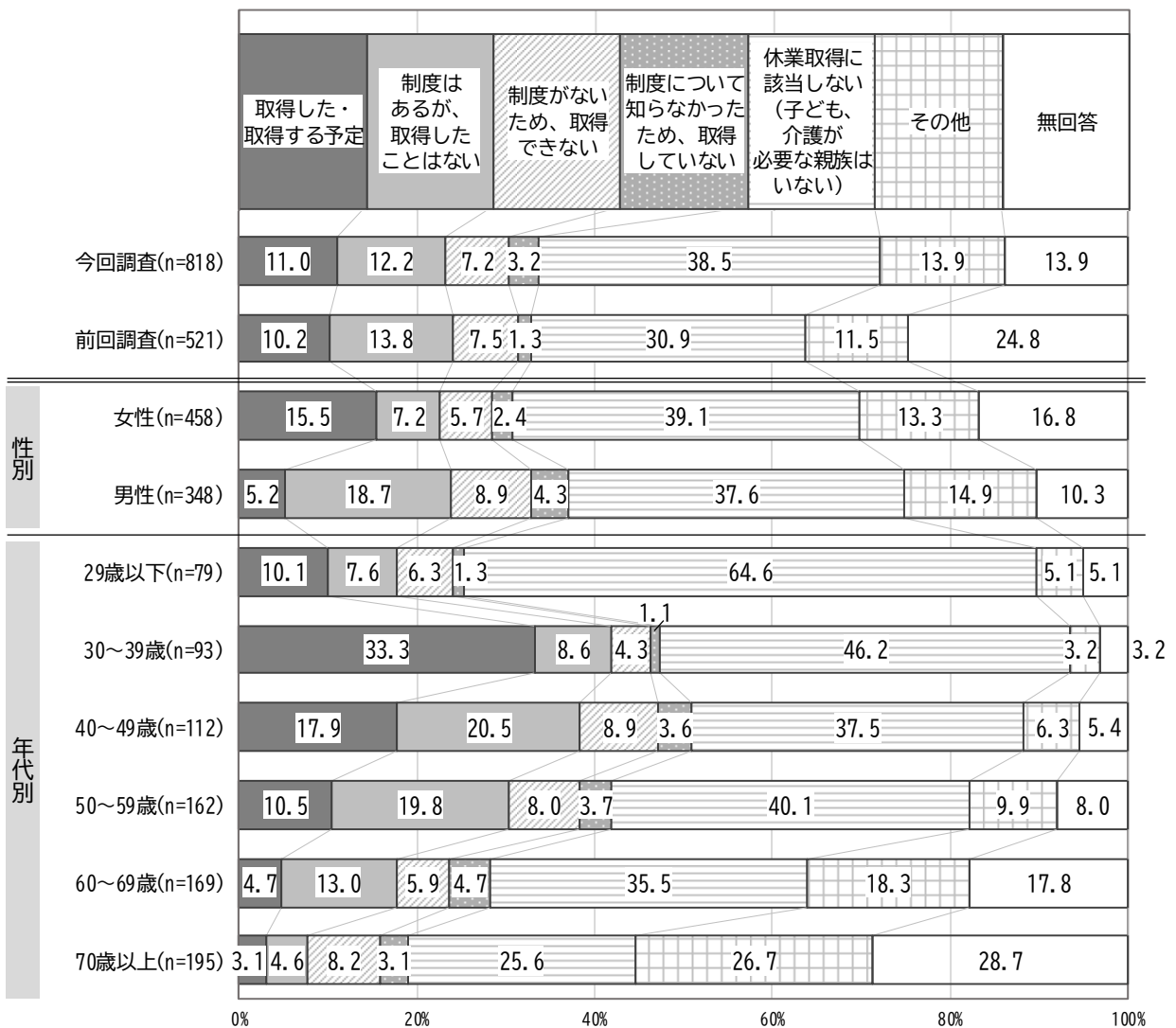
育児休業・介護休業の取得状況と予定について、いずれも「休業取得に該当しない(子ども、介護が必要な親族はいない)」が最も高くなっています。

■ ①育児休業

育児休業の取得状況について、性別にみると、女性では「取得した・取得する予定」の割合が高い一方、男性では「制度はあるが、取得したことはない」と回答した割合が高く、差がみられます。

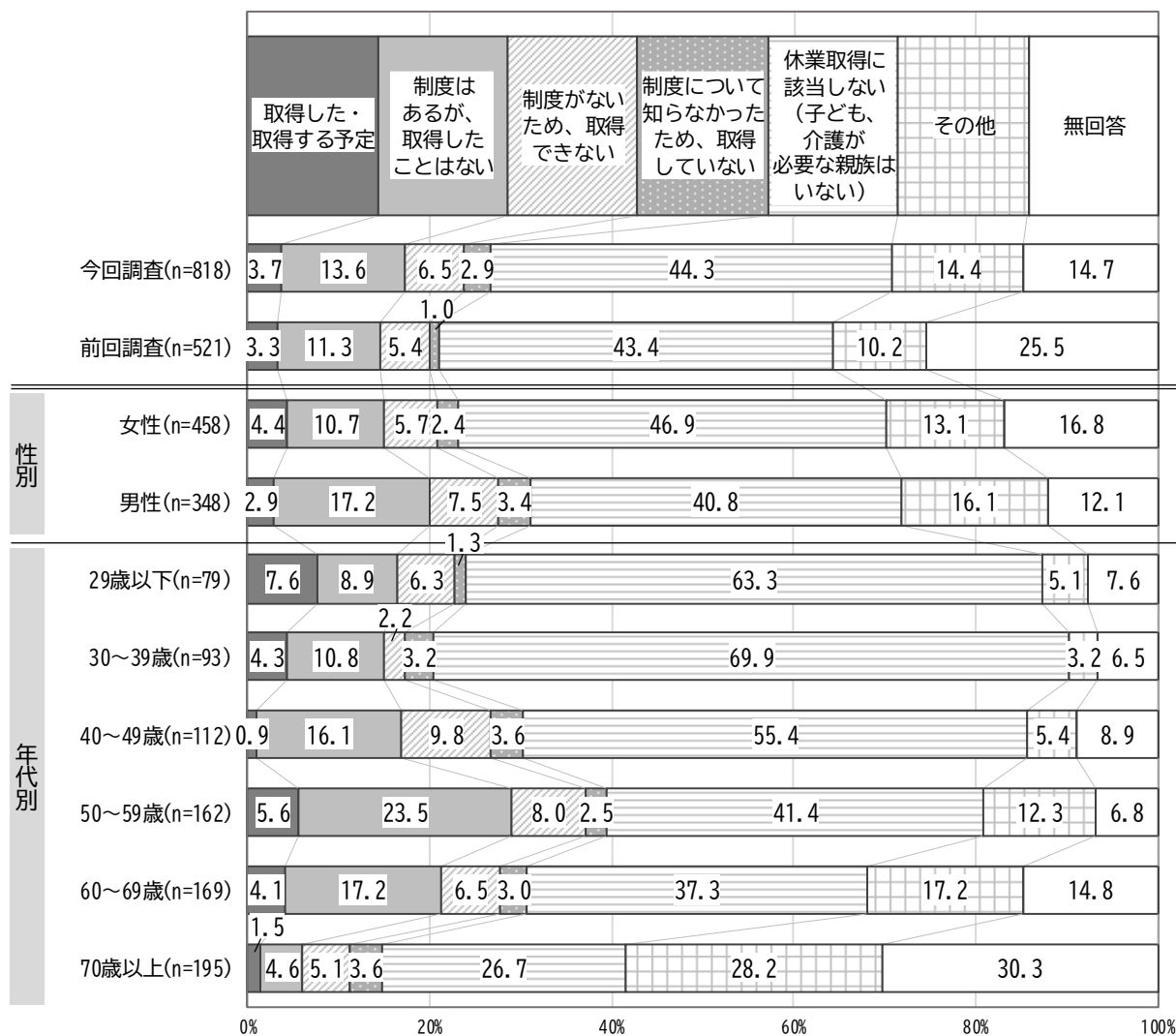
年代別にみると、30～39歳で「取得した・取得する予定」が33.3%と全年代で最も高くなっています。一方で、29歳以下では「休業取得に該当しない(子ども、介護が必要な親族はいない)」が過半数を占めています。また、40～49歳、50～59歳では「制度はあるが、取得したことはない」が高くなっています。

前回調査と比較すると、「休業取得に該当しない(子ども、介護が必要な親族はいない)」が7.6ポイント上昇しています。



■ ②介護休業

介護休業の取得状況について、年代別にみると、50～59歳で「取得した・取得する予定」が高くなっています。一方で、30～39歳では「休業取得に該当しない（子ども、介護が必要な親族はいない）」が過半数を占めています。また、50～59歳、60～69歳では「制度はあるが、取得したことはない」が高くなっています。



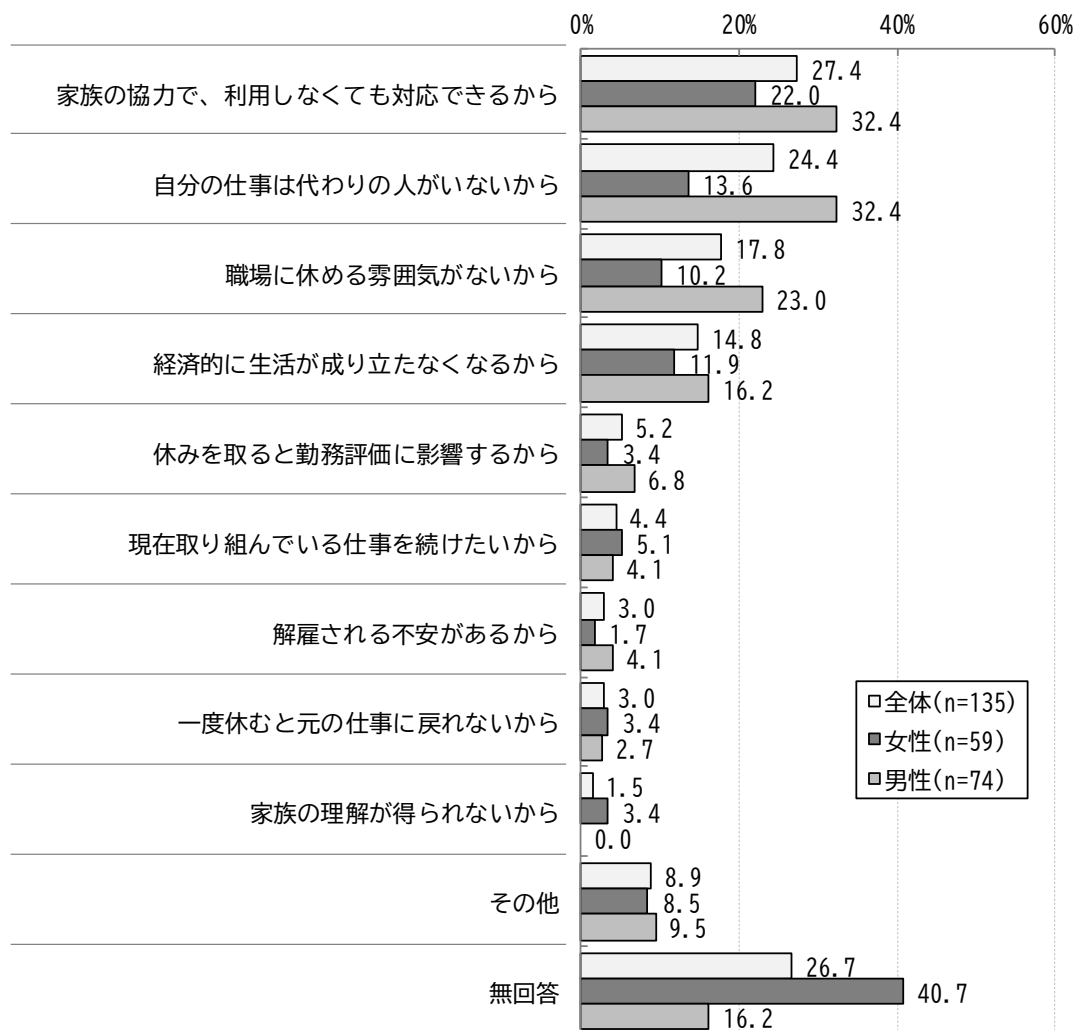
(21) 休業制度を利用しない理由

【問10の①または②で（制度はあるが、取得したことはない）を選択した方】

問10-1 育児や介護の休業制度を利用しない理由は何ですか。（〇はいくつでも）

休業制度を利用しない理由について、「家族の協力で、利用しなくても対応できるから」(27.4%)が最も高く、次いで「自分の仕事は代替りの人がいないから」(24.4%)、「職場に休める雰囲気がないから」(17.8%)となっています。

性別にみると、男性では「家族の協力で、利用しなくても対応できるから」や「自分の仕事は代替りの人がいないから」、「職場に休める雰囲気がないから」といった理由を挙げる割合が女性より高くなっています。



年代別にみると、40歳以上では「家族の協力で、利用しなくても対応できるから」が他の年代に比べて高い傾向にあり、40～49歳では「職場に休める雰囲気がないから」と同率で最も高くなっています。29歳以下では「経済的に生活が成り立たなくなるから」と「自分の仕事は代わりの人がいないから」が同率で高くなっており、30～39歳では「経済的に生活が成り立たなくなるから」が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「自分の仕事は代わりの人がいないから」が14.2ポイント上昇し、「職場に休める雰囲気がないから」が10.6ポイント、「家族の協力で、利用しなくても対応できるから」が9ポイント低下しています。

	家族の協力で、利用しなくても対応できるから	自分の仕事は代わりの人がいないから	職場に休める雰囲気がないから	経済的に生活が成り立たなくなるから	休みを取ると勤務評価に影響するから	現在取り組んでいる仕事を続けたいから	解雇される不安があるから	一度休むと元の仕事に戻れないから	家族の理解が得られないから	
今回調査(n=135)	27.4	24.4	17.8	14.8	5.2	4.4	3.0	3.0	1.5	
前回調査(n=88)	36.4	10.2	28.4	18.2	6.8	6.8	4.5	5.7	2.3	
女性	今回(n=59)	22.0	13.6	10.2	11.9	3.4	5.1	1.7	3.4	3.4
	前回(n=35)	20.0	5.7	25.7	8.6	2.9	5.7	8.6	11.4	5.7
男性	今回(n=74)	32.4	32.4	23.0	16.2	6.8	4.1	4.1	2.7	0.0
	前回(n=51)	49.0	11.8	29.4	23.5	9.8	7.8	2.0	2.0	0.0
29歳以下(n=6)	0.0	33.3	16.7	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	
30～39歳(n=11)	18.2	27.3	18.2	36.4	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	
40～49歳(n=27)	33.3	29.6	33.3	14.8	14.8	0.0	7.4	7.4	3.7	
50～59歳(n=46)	28.3	23.9	15.2	15.2	2.2	2.2	2.2	0.0	2.2	
60～69歳(n=33)	30.3	18.2	15.2	9.1	0.0	3.0	0.0	3.0	0.0	
70歳以上(n=10)	30.0	30.0	0.0	0.0	10.0	10.0	10.0	10.0	0.0	

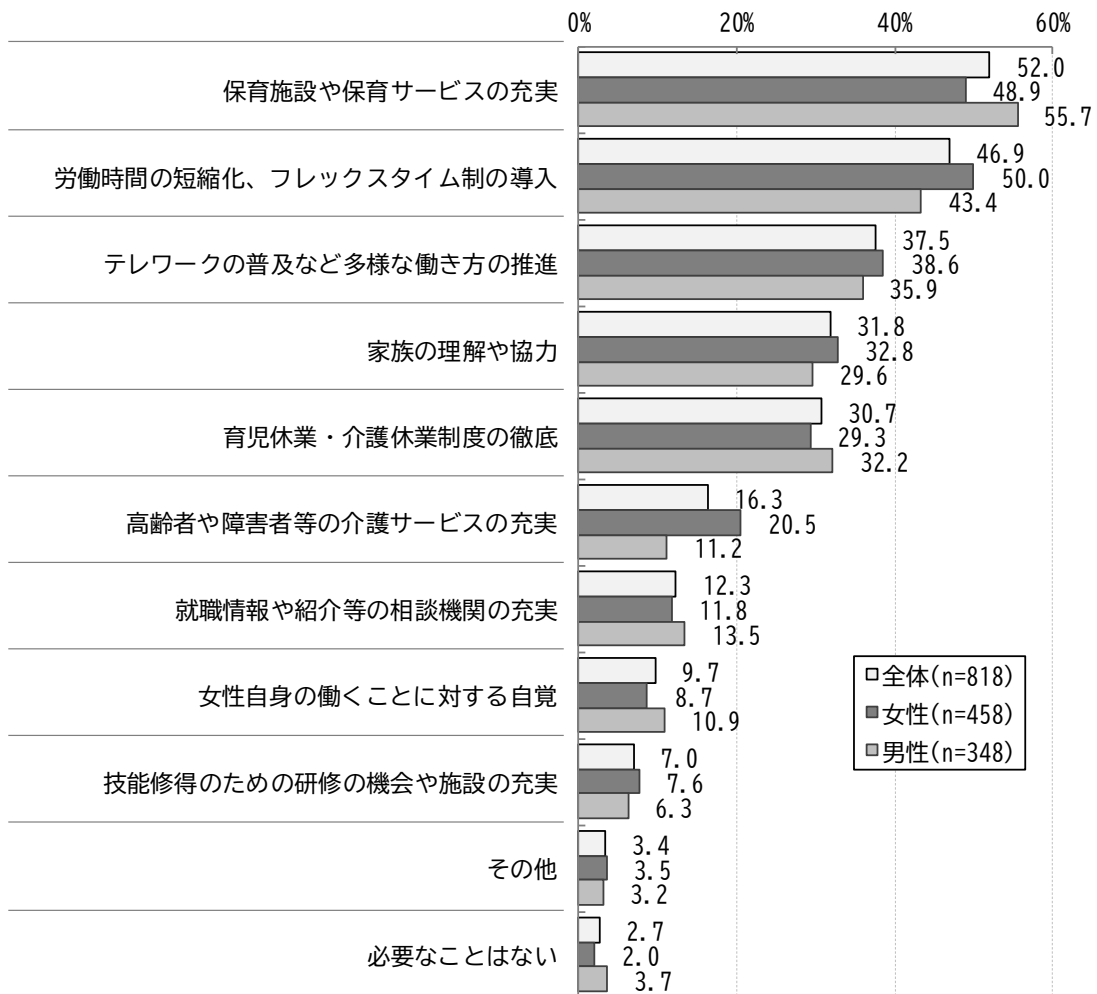
	その他	無回答	
今回調査(n=135)	8.9	24.4	
前回調査(n=88)	17.0	9.1	
女性	今回(n=59)	8.9	24.4
	前回(n=35)	31.4	11.4
男性	今回(n=74)	9.5	16.2
	前回(n=51)	7.8	5.9
29歳以下(n=6)	33.3	16.7	
30～39歳(n=11)	0.0	27.3	
40～49歳(n=27)	7.4	14.8	
50～59歳(n=46)	10.9	26.1	
60～69歳(n=33)	6.1	33.3	
70歳以上(n=10)	10.0	20.0	

(22) 女性が結婚・出産後も働き続けるために必要なこと

問 11 女性が結婚・出産後も働き続けるため、または再就職するために必要なことは何だと思えますか。
(〇は3つまで)

女性が結婚・出産後も働き続けるために必要なことについて、「保育施設や保育サービスの充実」(52.0%)が最も高く、次いで「労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入」(46.9%)、「テレワークの普及など多様な働き方の推進」(37.5%)となっています。

性別にみると、男性では「保育施設や保育サービスの充実」を重視する割合が高くなっています。一方、女性では「労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入」や「高齢者や障害者等の介護サービスの充実」を重視する割合が高くなっています。



年代別にみると、いずれの年代においても「保育施設や保育サービスの充実」が最も高くなっており、特に30～39歳や50～59歳でその傾向が顕著です。一方で、29歳以下では「労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入」が最も高い割合を占めています。また、年代が上がるにつれて「高齢者や障害者等の介護サービスの充実」を挙げる割合が上昇しています。

前回調査と比較すると、「保育施設や保育サービスの充実」が9.0ポイント、「家族の理解や協力」が10.0ポイント低下しています。なお、「テレワークの普及など多様な働き方の推進」は今回調査で37.5%となっており、新たな支援策として高い関心を集めています。

		保育施設や保育サービスの充実	労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入	テレワークの普及など多様な働き方の推進	家族の理解や協力	育児休業・介護休業制度の徹底	高齢者や障害者等の介護サービスの充実	就職情報や紹介等の相談機関の充実	女性自身への働くことに対する自覚	技能修得のための研修の機会や施設の充実
今回調査(n=818)		52.0	46.9	37.5	31.8	30.7	16.3	12.3	9.7	7.0
前回調査(n=521)		61.0	49.5	-	41.8	36.9	22.3	12.3	11.7	7.9
女性	今回(n=458)	48.9	50.0	38.6	32.8	29.3	20.5	11.8	8.7	7.6
	前回(n=267)	62.5	49.8	-	46.8	35.6	21.7	9.4	9.7	8.6
男性	今回(n=348)	55.7	43.4	35.9	29.6	32.2	11.2	13.5	10.9	6.3
	前回(n=213)	60.6	51.2	-	36.6	40.4	21.6	16.4	13.1	7.0
29歳以下(n=79)		51.9	59.5	39.2	15.2	30.4	5.1	22.8	6.3	11.4
30～39歳(n=93)		55.9	53.8	44.1	26.9	29.0	9.7	8.6	9.7	7.5
40～49歳(n=112)		49.1	48.2	45.5	33.0	25.9	11.6	13.4	10.7	6.3
50～59歳(n=162)		56.8	52.5	42.6	32.7	26.5	17.9	9.9	9.9	7.4
60～69歳(n=169)		51.5	47.3	36.1	35.5	31.4	20.7	10.1	10.1	7.1
70歳以上(n=195)		48.7	33.3	26.2	34.9	37.4	21.5	13.3	10.3	4.6

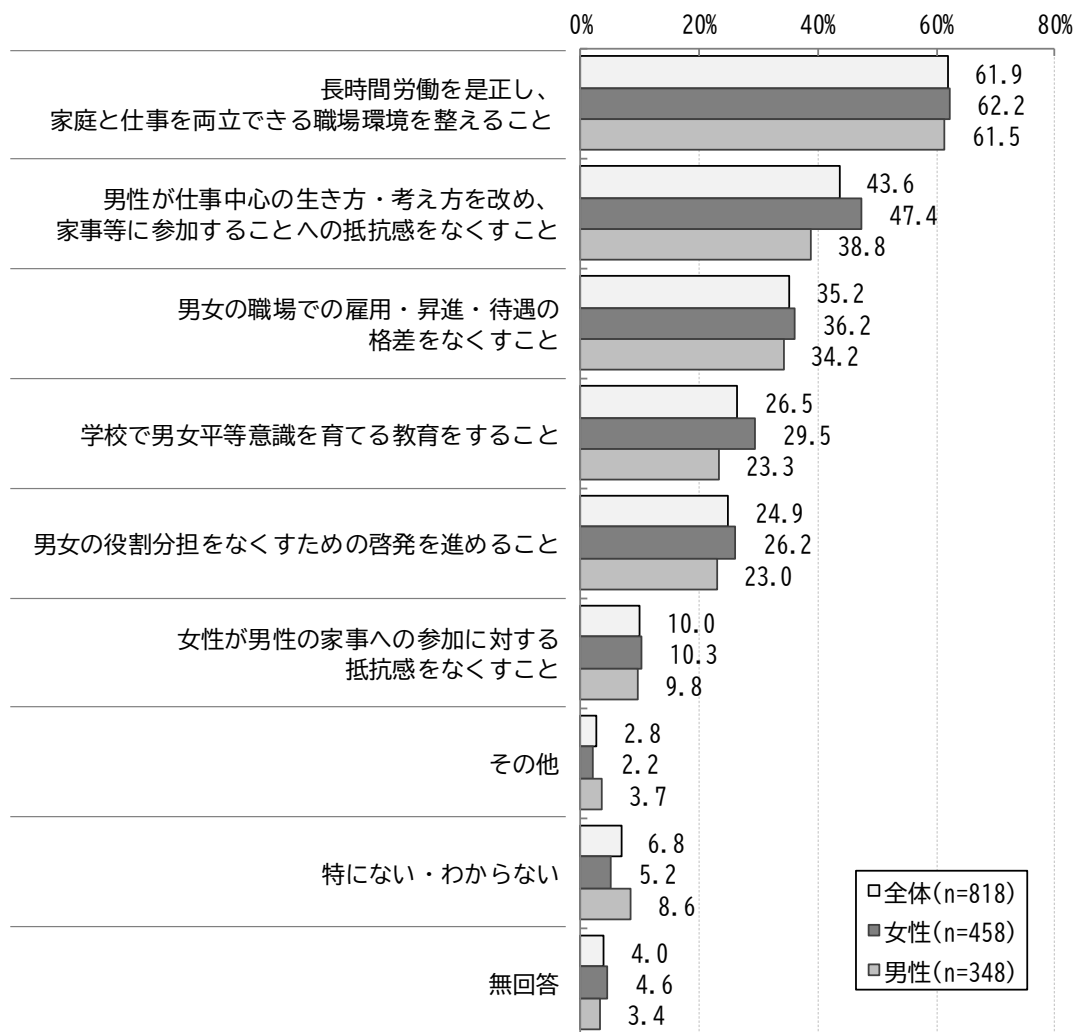
		その他	必要なことはない	無回答
今回調査(n=818)		3.4	2.7	4.3
前回調査(n=521)		2.9	0.6	7.3
女性	今回(n=458)	3.5	2.0	4.6
	前回(n=267)	2.2	0.4	7.9
男性	今回(n=348)	3.2	3.7	4.0
	前回(n=213)	4.2	0.9	4.2
29歳以下(n=79)		2.5	2.5	1.3
30～39歳(n=93)		3.2	3.2	3.2
40～49歳(n=112)		6.3	4.5	0.9
50～59歳(n=162)		3.1	0.6	1.9
60～69歳(n=169)		1.8	3.0	5.3
70歳以上(n=195)		4.1	3.1	8.7

(23) 男女が仕事と生活を両立するために必要なこと

問 12 男女が共に仕事と生活の調和を図るために、必要なことは何だと思えますか。(〇は3つまで)

男女が仕事と生活を両立するために必要なことについて、「長時間労働を是正し、家庭と仕事を両立できる職場環境を整えること」(61.9%)が最も高く、次いで「男性が仕事中心の生き方・考え方を改め、家事等に参加することへの抵抗感をなくすこと」(43.6%)、「男女の職場での雇用・昇進・待遇の格差をなくすこと」(35.2%)となっています。

性別にみると、女性では「男性が仕事中心の生き方・考え方を改め、家事等に参加することへの抵抗感をなくすこと」や「学校で男女平等意識を育てる教育をすること」を重視する割合が高くなっています。



年代別にみると、いずれの年代でも「長時間労働を是正し、家庭と仕事を両立できる職場環境を整えること」が最も高くなっており、特に30～39歳でその傾向が顕著です。また、50～59歳では「男性が仕事中心の生き方・考え方を改め、家事等に参加することへの抵抗感をなくすこと」が他の年代に比べて高くなっています。さらに、29歳以下や60～69歳では「男女の職場での雇用・昇進・待遇の格差をなくすこと」が約4割に達しています。

前回調査と比較すると、「長時間労働を是正し、家庭と仕事を両立できる職場環境を整えること」が6.0ポイント低下しています。

	長時間労働を是正し、家庭と仕事を両立できる職場環境を整えること	男性が仕事中心の生き方・考え方を改め、家事等に参加することへの抵抗感をなくすこと	男女の職場での雇用・昇進・待遇の格差をなくすこと	学校で男女平等意識を育てる教育をすること	男女の役割分担をなくすための啓発を進めること	女性が男性の家事への参加に対する抵抗感をなくすこと	その他	特にない・わからない	無回答
今回調査(n=818)	61.9	43.6	35.2	26.5	24.9	10.0	2.8	6.8	4.0
前回調査(n=521)	67.9	42.4	33.0	30.7	21.7	10.7	2.9	2.3	0.0
女性	今回(n=458)	62.2	47.4	36.2	29.5	26.2	2.2	5.2	4.6
	前回(n=267)	65.5	45.3	34.8	34.1	21.7	3.0	1.5	7.5
男性	今回(n=348)	61.5	38.8	34.2	23.3	23.0	3.7	8.6	3.4
	前回(n=213)	72.8	39.0	30.5	25.4	22.5	2.8	3.8	4.2
29歳以下(n=79)	64.6	41.8	40.5	19.0	22.8	7.6	2.5	2.5	2.5
30～39歳(n=93)	69.9	35.5	25.8	21.5	30.1	11.8	3.2	9.7	2.2
40～49歳(n=112)	59.8	34.8	34.8	31.3	18.8	10.7	5.4	8.0	1.8
50～59歳(n=162)	63.0	52.5	37.7	25.3	28.4	9.3	1.9	3.7	0.6
60～69歳(n=169)	65.7	45.0	40.8	31.4	22.5	9.5	1.2	8.3	5.9
70歳以上(n=195)	54.4	45.6	32.3	26.7	25.1	11.3	3.6	7.2	7.2

5 介護・定年後について

(24) 家族に介護が必要になった場合の就労継続意向

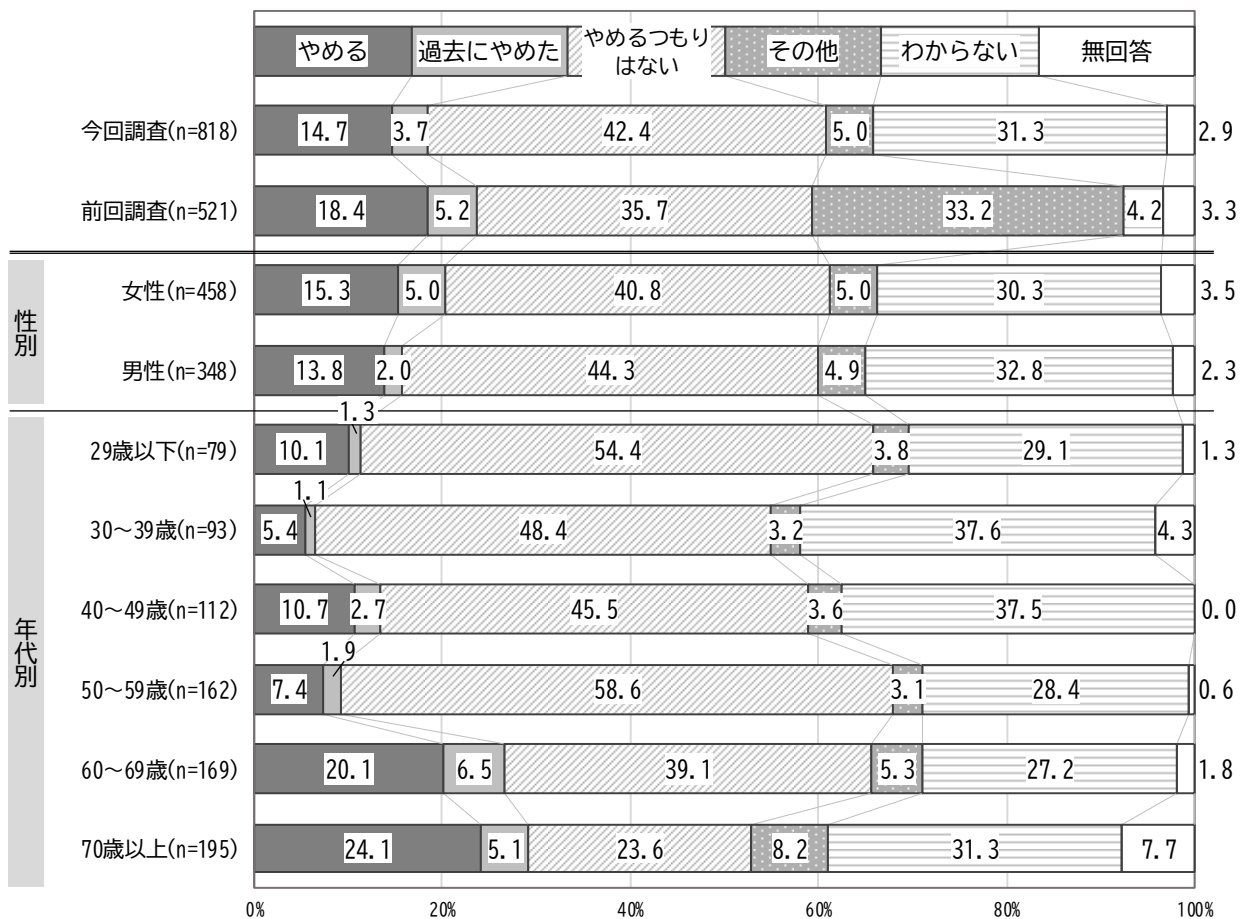
問 13 あなたは同居している家族に介護が必要になった場合、仕事をやめますか。(○は1つ)
 ※実際に同居している家族がいらっしゃる場合はいると仮定して、また、仕事をしていない場合はしていると仮定してお答えください。

家族に介護が必要になった場合の就労継続意向について、「やめるつもりはない」(42.4%)が最も高く、次いで「わからない」(31.3%)、「やめる」(14.7%)となっています。

性別にみると、女性では「やめる」または「過去にやめた」と回答した割合が男性より高くなっています。

年代別にみると、69歳以下では「やめるつもりはない」が最も高く、特に50~59歳でその傾向が顕著です。一方で、60歳以上では「やめる」と回答する割合が上昇しています。

前回調査と比較すると、「やめるつもりはない」が6.7ポイント上昇しています。

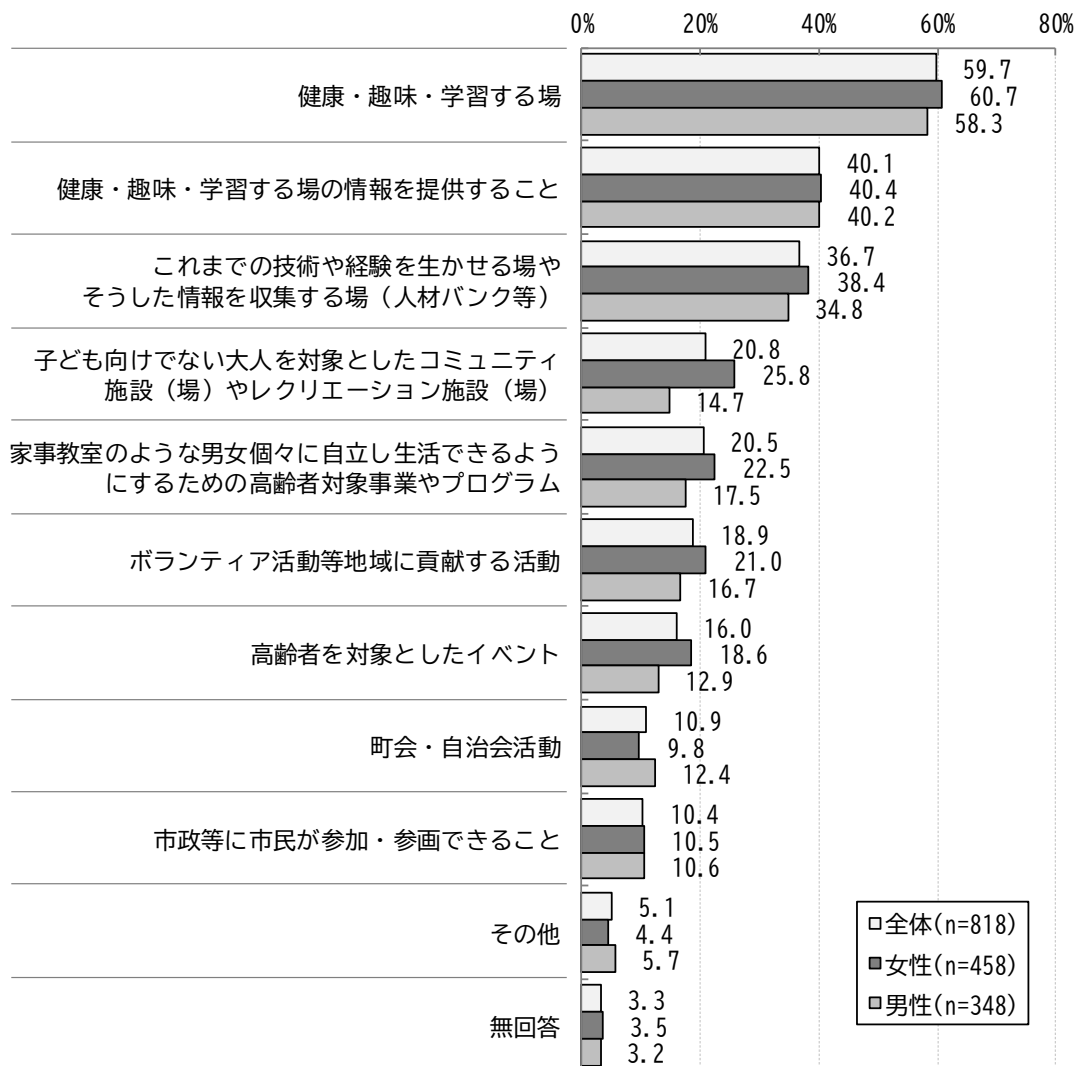


(25) 定年後を豊かに生きるために有効な取組

問 14 定年後の人生を男女が共に豊かに生きていく社会をつくるために、有効だと思うものをお答えください。(〇はいくつでも)

定年後を豊かに生きるために有効な取組について、「健康・趣味・学習する場」(59.7%) が最も高く、次いで「健康・趣味・学習する場の情報を提供すること」(40.1%)、「これまでの技術や経験を生かせる場やそうした情報を収集する場(人材バンク等)」(36.7%)となっています。

性別にみると、女性では「子ども向けでない大人を対象としたコミュニティ施設(場)やレクリエーション施設(場)」を重視する割合が男性より高くなっています。



年代別にみると、いずれの年代でも「健康・趣味・学習する場」が最も高くなっており、特に30～39歳、40～49歳、50～59歳でその傾向が顕著です。また、50歳以上では「健康・趣味・学習する場の情報を提供すること」が4割を超えています。さらに、60～69歳では「ボランティア活動等地域に貢献する活動」が他の年代に比べて高い傾向にあります。

前回調査と比較すると、「高齢者を対象としたイベント」が5.7ポイント低下しています。

		健康・趣味・学習する場	健康・趣味・学習する場の情報を提供すること	これまでの技術や経験を生かせる場やそうした情報を収集する場(人材バンク等)	子ども向けでない大人を対象としたコミュニティ施設(場)やレクリエーション施設(場)	家事教室のような男女個々に自立し生活できるようにするための高齢者対象事業やプログラム	ボランティア活動等地域に貢献する活動	高齢者を対象としたイベント	町会・自治会活動	市政等に市民が参加・参画できること
今回調査(n=818)		59.7	40.1	36.7	20.8	20.5	18.9	16.0	10.9	10.4
前回調査(n=521)		58.7	39.3	40.1	25.1	23.8	21.9	21.7	14.6	10.2
女性	今回(n=458)	60.7	40.4	38.4	25.8	22.5	21.0	18.6	9.8	10.5
	前回(n=267)	58.1	41.6	44.9	27.3	27.7	20.2	24.0	12.4	9.0
男性	今回(n=348)	58.3	40.2	34.8	14.7	17.5	16.7	12.9	12.4	10.6
	前回(n=213)	62.4	38.0	34.3	23.0	16.9	22.5	18.8	16.4	11.3
29歳以下(n=79)		59.5	30.4	35.4	19.0	22.8	12.7	21.5	13.9	11.4
30～39歳(n=93)		66.7	40.9	44.1	24.7	24.7	12.9	16.1	15.1	16.1
40～49歳(n=112)		66.1	35.7	40.2	18.8	18.8	17.9	17.0	9.8	10.7
50～59歳(n=162)		66.7	42.0	43.2	23.5	22.8	18.5	14.8	4.9	10.5
60～69歳(n=169)		56.8	43.8	36.7	18.3	16.6	23.7	16.0	9.5	9.5
70歳以上(n=195)		49.7	42.1	26.2	21.0	19.5	21.5	14.9	14.4	8.2

		その他	無回答
今回調査(n=818)		5.1	3.3
前回調査(n=521)		4.8	3.8
女性	今回(n=458)	4.4	3.5
	前回(n=267)	3.0	3.4
男性	今回(n=348)	5.7	3.2
	前回(n=213)	6.6	3.3
29歳以下(n=79)		5.1	5.1
30～39歳(n=93)		3.2	1.1
40～49歳(n=112)		6.3	0.9
50～59歳(n=162)		4.3	1.2
60～69歳(n=169)		6.5	3.6
70歳以上(n=195)		4.6	6.2

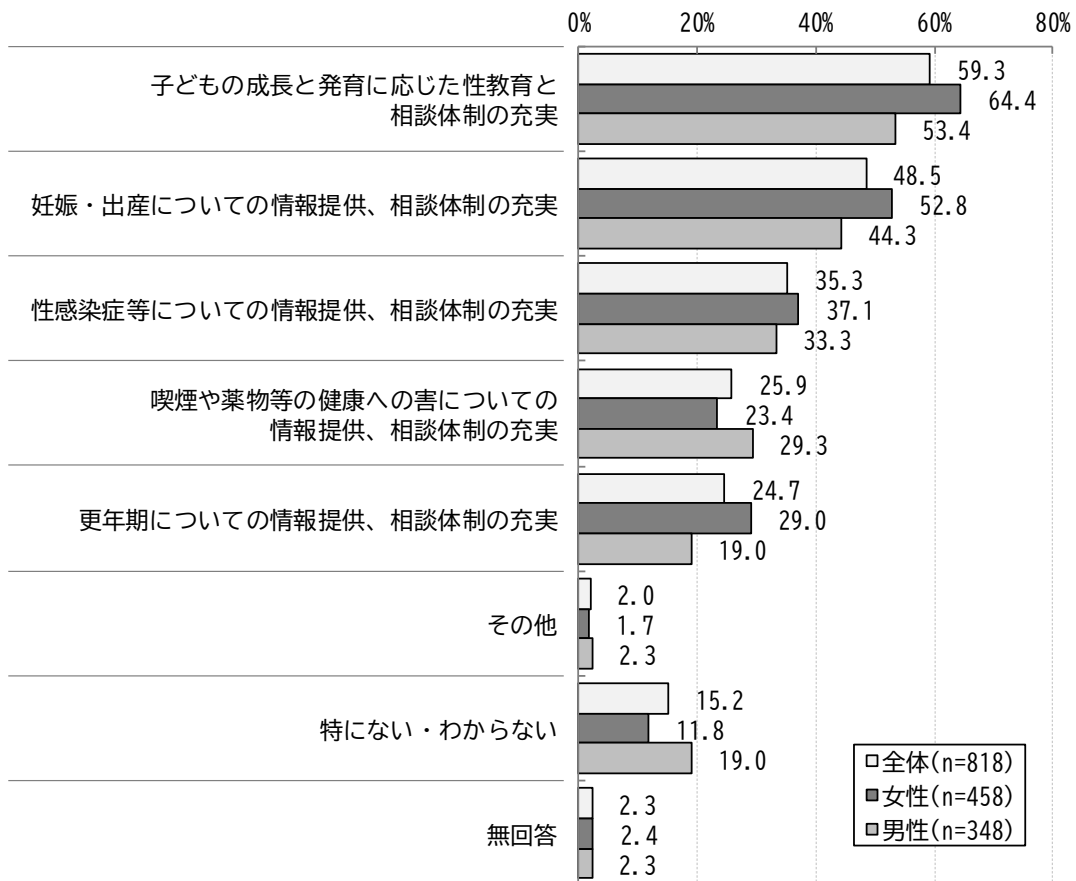
6 健康（性の権利・考え方）について

(26) 女性の健康・性を守るために必要なこと

問 15 性の自己決定権（リプロダクティブ・ヘルス／ライツ）に基づいて、女性が妊娠、避妊、中絶に関して自分で決めたり、自分の健康を守るためにどのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

女性の健康・性を守るために必要なことについて、「子どもの成長と発育に応じた性教育と相談体制の充実」(59.3%)が最も高く、次いで「妊娠・出産についての情報提供、相談体制の充実」(48.5%)、「性感染症等についての情報提供、相談体制の充実」(35.3%)となっています。

性別にみると、女性では「子どもの成長と発育に応じた性教育と相談体制の充実」や「更年期についての情報提供、相談体制の充実」を挙げる割合が男性より高くなっています。



年代別にみると、いずれの年代でも「子どもの成長と発育に応じた性教育と相談体制の充実」が最も高くなっており、特に40～49歳や30～39歳でその傾向が顕著です。また、29歳以下では「妊娠・出産についての情報提供、相談体制の充実」が「子どもの成長と発育に応じた性教育と相談体制の充実」と同率で最も高くなっています。さらに、50～59歳では「更年期についての情報提供、相談体制の充実」が他の年代に比べて高い傾向にあります。

前回調査と比較すると、「子どもの成長と発育に応じた性教育と相談体制の充実」は横ばいとなっています。一方で、「妊娠・出産についての情報提供、相談体制の充実」が13.8ポイント大幅に上昇しています。

		子どもの成長と発育に応じた性教育と相談体制の充実	妊娠・出産についての情報提供、相談体制の充実	性感染症等についての情報提供、相談体制の充実	喫煙や薬物等の健康への害についての情報提供、相談体制の充実	更年期についての情報提供、相談体制の充実	その他	特にない・わからない	無回答
今回調査(n=818)		59.3	48.5	35.3	25.9	24.7	2.0	15.2	2.3
前回調査(n=521)		59.3	34.7	31.5	33.8	27.3	3.5	13.1	4.0
女性	今回(n=458)	64.4	52.8	37.1	23.4	29.0	1.7	11.8	2.4
	前回(n=267)	65.5	36.7	33.3	37.1	29.6	4.5	7.5	3.0
男性	今回(n=348)	53.4	44.3	33.3	29.3	19.0	2.3	19.0	2.3
	前回(n=213)	52.6	35.7	30.5	30.0	24.4	1.9	20.2	2.3
29歳以下(n=79)		62.0	62.0	46.8	22.8	11.4	1.3	10.1	3.8
30～39歳(n=93)		67.7	58.1	53.8	11.8	21.5	3.2	12.9	1.1
40～49歳(n=112)		68.8	58.0	42.0	21.4	25.0	4.5	8.9	0.0
50～59歳(n=162)		60.5	48.8	29.0	30.2	32.7	0.0	14.2	0.0
60～69歳(n=169)		53.3	47.9	29.6	27.2	26.6	2.4	18.9	4.1
70歳以上(n=195)		54.4	34.4	28.7	31.8	24.1	1.5	17.9	3.6